

SHOWA UNIVERSITY NEWS

OCT. NOV.
2024

11

昭和大学新聞
通巻 第622号 (隔月発行)

旗ヶ岡祭・いぶき祭・緑風祭を賑やかに開催

学生からの寄稿 海外研修報告



2 Special Feature
旗ヶ岡祭・いぶき祭・
ホームカミングデー [旗の台キャンパス]
緑風祭 [横浜キャンパス]

6 Press Release
電子カルテを活用した共同研究を開始
既存の医薬品の課題発掘を目指す
新たな脳腫瘍治療の開発へ
次世代ゲノムシーケンス解析による脳腫瘍遺伝子
検査の共同研究契約を締結
起立性調節障害の子どもを対象とした睡眠実態調査
プロジェクト協力医療機関を募集 ほか

8 Student Life
学生海外研修報告
「私が体験したこと」

12 News & Topics
医学部白衣授与式 大学院秋季修了式、入学式
リカレントカレッジ秋期入学式・開講式
解剖慰霊祭 父兄会秋季部会
旗の台一丁目町会祭禮 ほか

21 Database
令和6年度科学研究費
助成事業採択課題一覧
歯学部 薬学部
入学試験結果
大学院 助産学専攻科
大学院修了生・新入生一覧
夏季スポーツ大会競技結果

26 Meeting Report (学内会議報告)

27 Information



旗ヶ岡祭・いぶき祭 を開催 ホームカミングデー で同窓生がキャンパスへ 横浜キャンパスでは 緑風祭 を開催

10月12日・13日の2日間、第64回旗ヶ岡祭（大学祭）を旗の台キャンパスで開催した。

大学祭は学生で構成される実行委員会によって開催され、「飛」をテーマにステージ企画や模擬店、展示などさまざまなプログラムで盛り上がった。

開会式ではダンス部や軽音部、アコースティックギターサークルや応援指導部によるパフォーマンスのほか、近隣の小学校から参加の音楽隊による演奏も披露された。

このほか、スタンプラリーやお笑いライブ、バザーなどの各催しには、地域から多くの方にご来場いただいた。

また、同日、医学部附属看護専門学校では第50回いぶき祭（学校祭）を開催し、こちらも学生が主体となって、人体模型パズルやBLS（一次救命処置）体験、妊婦体験など、看護の知識を活かした企画が催された。



旗ヶ岡祭・いぶき祭

10月12日、第17回昭和大学ホームカミングデーを上條記念館で開催した。

開式にあたり、昭和大学管弦楽団の演奏が行われ、華やかなスタートとなった。

今年の招待学年は、ゴールデン記念（卒業後50年）にあたる医学部42回生、薬学部5回生、シルバー記念（卒業後25年）にあたる医学部67回生、歯学部17回生、薬

学部30回生、そしてブロンズ記念（卒業後15年）にあたる保健医療学部9回生の方々と、229名が参加した。

式典では、久光正学長による各招待学年代表者への記念楯贈呈のほか、招待学年代表者による挨拶や昭和大学宣言、校歌斉唱が行われた。

続いての懇親会では参加者が旧交を温め、盛会となった。



ホームカミングデー



緑風祭

第25回緑風祭が11月2日・3日の2日間、横浜キャンパスで開催された。同祭は学生の実行委員会によって企画され、各種模擬店や芸人ライブ、ビンゴ大会などの催しがあった。今年は青空の下でステージ企画を行うことができ、横浜キャンパスが大変賑わった。



旗ヶ岡祭・いぶき祭

第64回旗ヶ岡祭実行委員会 実行委員長
大塚 陽樹さん(薬学部4年)

旗ヶ岡祭を終えて

第64回となる旗ヶ岡祭が10月12日・13日の2日間にわたり開催されました。今年度は「飛」をテーマに活動を進めてまいりました。晴天にも恵まれ、たくさんの方々にご来場いただきました。誠にありがとうございました。

旗ヶ岡祭実行委員長として仕事をしていく中で、新しい企画を取り入れたり、他大学の学園祭実行委員に意見を求めに行ったりするなど、少しでもより良い形にできないかを1年間模索し続けました。まだまだ反省点はありますが、活動的に過ごす日々はとても良い経験になりました。

旗ヶ岡祭当日終了後には、車いすでご来場いただいた方から公式SNSにホスピタリティ溢れる対応に対して、感謝のメッセージが寄せられました。医療系の大学祭にふさわしい空間を作り上げることができたことを、非常に嬉しく思っています。

来年以降も皆さまに愛される昭和大学旗ヶ岡祭を目指していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。最後になりましたが、旗ヶ岡祭開催にあたりご協力いただいた全ての方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

第25回緑風祭実行委員会 実行委員長
玉置 小麦さん(保健医療学部看護学科2年)

緑風祭を終えて

第25回緑風祭が11月2日・3日に行われました。昨年から再開したこの緑風祭ですが、今年はより多くの方に足を運んでもらいたいという思いがあり、芸人ライブ、スカイランタン®祭り、ビンゴ大会などの様々なイベントを開催しました。

準備の段階では、事務課や先生方が、私たち学生のために様々な場面で動いてくださり、実行委員は時間がない中、準備を進めてくれました。私は何度も実行委員長という役職の難しさに直面し、前日になっても不安な気持ちでいっぱいでした。

当日は学生だけでなく、一般の方にもご来場いただき、上手いかないこともありましたが、他の実行委員が臨機応変に動いてくれて、無事に終えることができました。

イベントにも多くの方が参加していただき、「楽しかった」「感動した」という声が耳に届いたときは、最後まで頑張った良かったなと心から思いました。

最後に、ご来場くださった皆様、ご協力いただいた全ての方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました！





Press Release

昭和大学では最新の研究結果を外部（マスメディア）に発信しています。
ここでは、プレスリリースとして発信した記事をご紹介します。



今回、リリース件数が多かったため、誌面は短縮版の掲載とします。
リリース全文は別途、下記QRコードリンク先（PDFファイル）でご紹介します。
全文PDF、もしくは個別記事のQRコードリンク先（大学プレスセンター）から
ご確認ください。



全文PDFはこちら

電子カルテを活用した共同研究を開始 既存の医薬品の課題発掘を目指す



学校法人昭和大学（東京都品川区／理事長：小口勝司）と株式会社ユカリア（本社：東京都千代田区／代表取締役社長：三沢英生）は、ユカリアが保有する電子カルテ由来の医療データを格納した「ユカリアデータレイク」を用いた医薬品開発シーズの発掘を目指した共同研究契約を2024年5月に締結し、研究を開始した。

起立性調節障害の子どもを対象とした 睡眠実態調査プロジェクト協力医療機関を募集



理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター合成生物学研究チームの上田泰己チームリーダー（東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻システムズ薬理学教室教授）、東京大学同教室の岸哲史特任講師、昭和大学医学部小児科学講座の加藤光広教授、同大学保健管理センターの田中大介教授らは、起立性調節障害の子ども（小中高生）を対象として、ウェアラブルデバイスを用いた睡眠測定を実施し、起立性調節障害の子どもの睡眠状態の把握と、睡眠問題の改善の糸口発見を目指す「子ども睡眠検診」プロジェクト（起立性調節障害の睡眠実態調査）を実施する。

新たな脳腫瘍治療の開発へ 次世代ゲノムシーケンス解析による 脳腫瘍遺伝子検査の共同研究契約を締結



学校法人昭和大学（東京都品川区／理事長：小口勝司）は、次世代ゲノムシーケンス解析を用いた脳腫瘍遺伝子検査の確立を目指し、株式会社Cancer Precision Medicine（神奈川県川崎市／代表取締役：嶋田順一）ならびにAdvanced Genomics APAC Co., Ltd.（台湾桃園市／Managing Director: Andy Chang）と共同研究契約を締結した。

■共同研究の概要 脳腫瘍、特に悪性脳腫瘍は、治療効果が得られにくく予後の悪い疾患として知られている。近年、脳腫瘍の分野においてゲノム解析が急速に進み、予後や治療の反応性の予測因子となる遺伝子変異の発見や、その遺伝子変異を標的とした治療薬の開発が進んでいる。

胎児の超音波診断を支援するAIシステム開発 先天性心疾患の早期発見に期待



理化学研究所（理研）革新知能統合研究センターがん探索医療研究チームの小松正明副チームリーダー、国立がん研究センター研究所医療AI研究開発分野の浜本隆二分野長（理研革新知能統合研究センターがん探索医療研究チーム・チームリーダー）、昭和大学医学部産婦人科学講座の松岡隆准教授らの共同研究グループは、超音波検査で胎児の心臓に異常がないかスクリーニングする際に、検査者の超音波診断を支援する人工知能（AI）システムを共同開発し、AI搭載医療機器プログラムとして厚生労働省の薬事承認を取得した。

世界初！新型がん治療薬剤の副作用である 吐き気・嘔吐予防として 既存の向精神病薬オランザピンの有効性を報告



昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の酒井隆准教授（先端がん治療研究所）と鶴谷純司教授（同）らの研究チームは、抗精神病薬のオランザピンを用いることで、抗体薬物複合体トラスツズマブデルクステカンによる遷延する吐き気や嘔吐を予防できることを世界で初めて明らかにした。本研究成果は、欧州臨床腫瘍学会（European Society for Medical Oncology: ESMO）の学術集会（2024年9月14日：スペイン・バルセロナ）で報告され、論文引用頻度の極めて高い科学誌「Annals of Oncology」に同時掲載された。

インクレチンGIPの抗動脈硬化作用を実証 心血管病や老年疾患での 新しい治療手段に期待高まる



昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の寺崎道重講師（医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門）と山岸昌一教授（同）らの研究チームは、インクレチンGIPがAMPK経路を介して老化物質AGEによって惹起されたNADPHオキシダーゼに由来する酸化ストレスの産生を抑え、マクロファージの泡沫化を抑制することを世界で初めて明らかにした。本研究成果は、論文引用頻度のきわめて高い科学誌「International Journal of Molecular Sciences」に記載された。

昭和大学から派生したベンチャー企業 不調に悩む現代人にサプリメント 「Calibrage（キャリブラージ）」を発売！



昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の第1号ベンチャーである株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所（本社：札幌市中央区／代表取締役：柴田 浩樹、以下 旗ヶ岡ネイチャー研究所）は、ポリフェノールを豊富に含むオリジナル原料「ポリフェノールプラン」（白ワインの製造工程で生じる種や皮などの絞りかす由来の原料）を主成分としたサプリメント「Calibrage（キャリブラージ）」の販売を9月10日から自社オンラインショップにて開始した。

横浜銀行と包括連携協定を締結 地域経済の持続的な成長・活性化の礎に



2024年9月26日、学校法人昭和大学（東京都品川区／理事長：小口勝司）は株式会社横浜銀行と包括連携協定を締結した。本協定は、相互の人的・知的資源の交流を図り、幅広い分野での教育・研究・社会貢献活動により、地域の諸課題解決に資することを目的としている。

協定締結式は昭和大学旗の台キャンパスにて行われ、本学より小口勝司理事長、久光正学長、小川良雄副学長、三邊武彦統括研究推進センター長、鈴木健司事務室事務長が出席した。

あなたには眠りやすい角度がある。
「入眠角度」という新提案。

ベッドが動けば、眠りは変わる。
Active Sleep BED

パラマウントベッド株式会社
東京支店 〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号
www.paramount.co.jp
(03)3648-1171(代)

日本調剤

全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社（本社：東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場）は、全国47都道府県で700以上の調剤薬局を展開している企業です。

「私が体験したこと」



昭和大学は国際的な視野を持った医療人を育てるため、国際交流プログラム・短期海外研修の企画・実施に力を入れており、毎年世界各国の大学や病院に学生を送り出している。今年度は、ポートランド州立大学(米国)とのサマープログラムに各学部の1年生14名、ワライラック大学(タイ)に保健医療学部3～4年生7名、オックスフォード大学(英国)のMedicine in Oxford Two Week Programmeに5名、UCLA(米国)のSummer Sessionsに医学部2年生が5名、合計31名の学生が各プログラムに参加した。各研修に参加した学生の代表10名に研修を振り返ってもらった。



医学部2年
塩原 さくら

研修中の苦労

私がこの研修で一番初めに感じた困難は、人種の違いを受け入れることでした。アジア人特有の外見や比較的勤勉だという日本人の国民性を揶揄されることは、人生初の経験で戸惑うこともありました。Noriko Salamon先生が、「外国人がアメリカで働いて認められていくには最低でも現地人の数倍は努力しなくてはだめ」とおっしゃっていましたが、その意味を思い知りました。つらいこともありましたが、ルームメイトが黒人系のパーティーに連れて行ってくれ、(まさかの屋外で焚火を焚いて行うパーティーでした)旅行ではできないような貴重な体験ができました。



医学部2年
徳野 七海

私が体験したこと

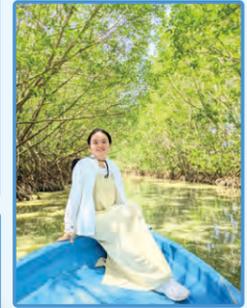
UCLA Summer Sessionsでは中国人の学生と関わる機会が多くあり、彼らの英語のレベルの高さに驚きました。聞いてみると、文法や語彙の勉強は私がやってきたこととあまり変わりありませんでしたが、実際に英語を話すことに力を入れてきたことが分かりました。今後、日本国内の外国人はさらに増えていき、英語を話す機会も増えていくと思うので、生きた英語の勉強に力を入れていきたいと思っています。



保健医療学部
看護学科4年
増岡 有紗

Don't worry!

研修にあたり、私が抱いていた不安は「自分の英語が通じなかったらどうしよう」でした。しかし、いざ研修が始まると、先導役としてガイドの方や、ワライラック大学の方について温かく歓迎してくださり、「英語がうまくない」と話すと「Don't worry!」と励ましてくださいました。そのおかげで話すことへの抵抗がなくなり、会話を楽しみ、どんどんタイの思い出が増えていき、良い研修を受けることが出来ました。英語力に不安がある人も「Don't worry!」。ぜひこの研修に飛び込んでほしいと思います。



Nakhon Si Thammarat, Thailand

ワライラック大学夏季研修



保健医療学部
看護学科3年
宮川 菜奈

忘れられない経験

この研修を通じて一番印象に残っていることは、ワライラック大学の人の関わりです。勉学は大変そうでしたが、楽しむ時は思いっきり遊んで、学ぶ時は集中して取り組んでいる姿に感銘を受けました。また、先輩や後輩、教授や学生、男女の隔たりがなく、全員が平等に意見を言い合っている環境に魅力を感じました。

タイの人は非常におもてなし精神があり、私たちを大歓迎してくださいました。

この経験を忘れず、異なる文化の人との関わりを大切に、これからも様々なことに挑戦していきたいです。



Angeles, California, USA

UCLA Summer Sessions

Medicine in Oxford Two Week Programme

Oxford, UK



医学部3年
堤 紗椰

オックスフォード大学での かけがえのない経験

2週間のプログラムでは、さまざまな医療トピックを英語で学び、討論したりプレゼンを行うことで、海外の医療について勉強し、新たな視点を得たり、日本の医療について見つめ直し、改めて考える大変有意義な機会となりました。また、共に学び切磋琢磨した台湾の学生との出会いは、忙しい勉強の中でも心配りとユーモアを忘れない姿は、私の新たなロールモデルとなり、そして、オックスフォード大学の学生との出会いは何ものにも代え難い私の財産となりました。



今回初めてオックスフォードへ留学しました。台湾の学生と授業を受けたり、Residential Assistantにパンティング(舟遊び)に連れて行ってもらったり、カラオケを一緒にしたり、とても充実した日々を送ることができました。今回の留学でもっと英語でコミュニケーションを取れるようにしたいと思ったので、さらに英語のレベルを向上させたいと思います。2週間という短い期間でしたがイギリスの文化や食事、風景を楽しむことができ、とても良い経験となりました。



保健医療学部
理学療法学科3年
五藤 沙也花



新たな発見と学びのある 貴重な経験



歯学部1年
相原 悠佑

日米の文化の違いについて

7月末からの2週間、ポートランド州立大学に短期留学の機会を与えていただき、ありがとうございました。私が感じた日本とアメリカの文化の違いについては、食生活やサステナビリティを意識した照明の設置など多々ありましたが、最も強烈に感じたことは、コミュニケーション上の違いです。アメリカでは、自分の意見を明確に主張しないと受け止めてもらえません。これまで私は自分の意見をあまり言わない方でしたが、これからは率直かつ堂々とした自己主張を心掛けていきたいと思っています。



薬学部1年
高橋 輝

私の留学体験記

初の海外研修で、新鮮で有意義な多くの体験と学びがありました。その中で特に、医療関係施設の見学を通して、日本の医療制度や環境との違いを知り、興味を持ちました。体験が伴ったおかげでより深い理解ができ、医療の経験や知識がまだ乏しい私にとって、今後の学修への良い足がかりになったと感じています。また、語学や異文化理解に関しても、現地でのコミュニケーションやアクティビティを通して達成でき、その経験を今後の成長にも繋げていきたいと思っています。



PSUサマープログラム

Portland, Oregon, USA



医学部1年
河野 優里佳

ポートランドでの医学研修

アメリカのポートランドでの研修は学生寮に滞在し、子ども病院や医学学習設備見学のほか、現地の医学部生との交流を行いました。シミュレーションセンターには精密な人形が並び、充実した設備が揃っていました。ランダル小児病院では、エレベーターのボタンが動物イラストになっていて、暖かく楽しい雰囲気でした。医学部生とは日米の医療システムの違い等について意見交換をしました。皆、真剣でモチベーションも高く、今後、勉強していく上でよい刺激となりました。



保健医療学部
看護学科1年
杉本 奈津希



ポートランドでの学びと成長

私は2週間のポートランド滞在を通じて、日本とアメリカの病院の違いや地域コミュニティについて学びました。小児病院の見学やシミュレーションセンターでは、日本とは異なる医療システムを見ることができ、とても貴重な体験をすることができました。また、地元のファーマーズマーケットでは、アメリカの食文化や地域コミュニティとのつながりについて深く考えるきっかけになりました。この2週間で様々なことを学び異なる視点や価値観に触れることができ、忘れられない経験となりました。

News & Topics

2024.8.6~8

横浜キャンパス 連携・貢献 地域・一般

看護とりハビリのお仕事を体験 子どもアドベンチャーカレッジ

2024年8月6日、8日に横浜市が開催する小学生を対象とした体験学習プログラム「子どもアドベンチャーカレッジ2024」に昭和大学保健医療学部が協力し、横浜キャンパスにて「看護とりハビリのお仕事を体験してみよう!」をテーマに開催した。

2日間で計121人の小学生が参加し、看護師、理学療法士、作業療法士の仕事を体験した。点滴の調整や傷の手当、ジャンプ力の向上運動、装具作製などの体験を通じて子ども達からは「楽しい」「職業に興味を持った」という声が多く上がり、キラキラした表情と笑顔に包まれて学生と楽しい時間を過ごしていただいた。将



来、昭和大学で共に医療を担う仲間になってくれることを期待している。

2024.9.7/8

旗の台キャンパス 地域・一般

旗ヶ岡八幡神社の神輿の渡御も 旗の台一丁目町会祭禮

9月7日、8日の両日、旗の台一丁目町会の祭禮が開催され、本学から久光正学長、小川総務担当理事、木内祐二看護専門学校長、相良博典昭和大学病院長その他多くの学生や職員が参加した。

神輿を担いだ学生・職員たちは、大きな掛け声とともに町会の皆さんと旗の台キャンパス周囲の町内を練り歩いた。

この祭禮は、荏原町駅近くにある旗ヶ岡八幡神社で毎年9月の第2土曜、日曜に行われる例大祭に合わせて行われるもので、神社周辺の町会で一斉に神輿を担ぎ地域の安全を祈願している。

今年は旗ヶ岡八幡神社の神輿の渡御も行われ、一層の盛り上がりを見せていた。



1 上條記念館前にて
キャンパス中庭にて
八幡神社 神輿渡御
2 旗の台
3 旗ヶ岡

2024.9.18

式典・行事

令和9年から2,000人の学生が学ぶ 新たな学舎に向けて 鷺沼キャンパス地鎮祭

9月18日、昭和大学鷺沼校地にて、昭和大学鷺沼キャンパス整備工事地鎮祭を執り行った。整備工事の安全祈願が厳かに行われ、着工の準備が整った。

この鷺沼キャンパスは令和9年4月1日より、医学部・歯学部・薬学部の2、3年次と4年次の一部、保健医療学部の2~4年次、助産学専攻科の学生約2,000人が学ぶ予定である。

鷺沼キャンパス整備の実現により、本学の特色である学部連携教育およびチーム医療教育のより一層の充実を図る。



新キャンパス整備計画概要
主要用途 教育施設(大学)
敷地面積 約36,800㎡
延べ面積 約36,800㎡
容積率 約100%
建物階数 地上3階建
最高高さ 約10m
着工(予定) 令和6年度
竣工(予定) 令和8年度



1 小口理事長、久光学長による玉串奉奠 2 小口理事長、久光学長による鉄入之儀 3 鷺沼キャンパスイメージ図

2024.7.26~9.23

医学部 歯学部 薬学部 保健医療学部 富士吉田キャンパス

1年生が楽しみながらゴルフや乗馬、造形を学ぶ 富士吉田キャンパス集中講座(選択科目)

7~8月にかけて、富士吉田教育部では、集中講座を実施した。

「健康とスポーツの科学」(ゴルフ) 7月26日~29日の4日間、富士吉田教育部では、ダイナミックゴルフ茂原(千葉県長生郡)でゴルフの集中講座を行った。

これは「健康とスポーツの科学」の授業で、JPGA(日本インストラクタープロゴルフ協会)公認ティーチングプロ3名を講師に招き、ゴルフの歴史やルール、マナーなどの講義のほか、ドライバーショット、アプローチショット、パッティングなどの実習を行った。

フットサルやバドミントン、乗馬などの種目のなかからゴルフを選んだ各学部の1年次学生36名が受講した。最終日には、ショートコースラウンドを行うなど、実践形式でゴルフの技術を高め合った。

「感性を掘り下げる色彩と造形」8月5日~8日にかけて、選択科目「感性を掘り下げる色彩と造形」の集中講座を多摩美術大学八王子キャンパス(東京都八王子市)にて行った。

小倉ひろみ兼任講師(多摩美術大学 客員教授)の指導のもと、27名の学生が講義や実技に取り組んだ。

配色造形トレーニングツール「いろくみ」を用いた体験学習や、描く対象を観察し、理解することを目的とした描画などを通じ、色彩と造形、デザインに対する理解を深めた。

普段とは異なる環境の中、学生たちは楽しみながらも積極的に学習に励んでいた。
※本学と多摩美術大学は「包括連携協定」を結んでおり、その活動の一環として、第1学年の選択科目に連携講座として開講している。

「健康とスポーツの科学」(乗馬) 9月21日~23日にかけて、「健康とスポーツの科学(乗馬)」の集中講座を富士吉田キャンパス内の馬場にて行った。本格的な乗馬の経験がない8名の学生が受講し、学生たちは、熱心に講義や実技に取り組んでいた。乗馬を通してスポーツが健康に及ぼす影響などを学んでいた。



1 2 ゴルフ実習 3 描画の実技体験 4 「いろくみ」を用いた体験学習 5 6 乗馬実習

2024.9.24

医学研究科 歯学研究科 薬学研究科 保健医療学研究科 式典・行事

36名の研究者が新たな旅立ちを迎える 大学院秋季修了式

9月24日、令和6年度昭和大学大学院秋季修了式を上條記念館で挙行し、医学研究科20名、歯学研究科4名、薬学研究科7名、保健医療学研究科博士前期課程2名、同博士後期課程3名、合わせて36名が研究者としての門出を迎えた。

久光正学長は告辞において、「大学院では“研究をする”“新しい知見を自ら見つけ出す”というところに意義があります。研究を続け、さらに新しい知識・技術を見つけていくことで世界の医療に貢献することにつながります。世の中の医療の進歩は目覚ましいものがありますが、その一つひとつは地道な研究の上で成り立っています。それが集まって大きな進歩となります。今後も研究を続け、併せて後輩の育成にも力を注いでいただきたいと思います」と修了生のさらなる飛躍に期待を寄せた。

続いて、小口勝司理事長の祝辞、各研究科長からは挨拶とともに今後の研究等のあり方について講話があった。

そして、修了生代表による昭和大学宣言、校歌斉唱が行われ、閉式となった。



1 告辞:久光正学長 2 学位記授与 3 記念撮影:医学研究科 4 記念撮影:歯学研究科 5 記念撮影:薬学研究科 6 記念撮影:保健医療学研究科

学部連携教育における指導者が対話スキルを学ぶ ファシリテータ養成ワークショップ

9月28日、ファシリテータ養成ワークショップを旗の台校舎教育研修棟にて開催した。

このワークショップは、質の高いファシリテータを養成することを目的に毎年開催しているもので、主に学部連携教育において指導者となる教育職員に、学部連携教育の目的やファシリテートの技法等を学んでもらうなど、ピギナーを対象とした内容になっている。

今年度は、受講者として医学部8名、歯学部13名、薬学部4名、保健医療学部8名、富士吉田教育部1名の合計34名、各学部から選出されたタスクフォース20名、合わせて54名が参加した。

受講者全員で、昭和大学の特色とチーム医療教育や、PBL[※]チュートリアル[※]の目的・進め方について講義を受けた後、グループに分かれて討議を行い、「チーム医療教育を受けた学生が修了時に身につけるべき能力」や、「ファシリテータによる学修支援のあり方」について活発なディスカッションが交わされた。その後の全体討議でも、「ファシリテータに求められる能力」について熱心に議論を行った。



※PBL (Problem Based Learning/問題解決型学習) 教育職員のサポートのもと、学生が数人のグループになって協力しながら、与えられた課題について、討論・発表を重ね、主体的に問題を解決していく学習

知の探求に臨む172名が多彩なプログラムで学び直し リカレントカレッジ秋期入学式・開講式

9月29日、上條記念館にて令和6年度秋期昭和大学リカレントカレッジ入学式・開講式を挙行政した。

開会に先立ち、昭和大学管弦楽団による演奏が行われ、華やかなスタートとなった。

小川良雄プリンシパルは式辞で「リカレントカレッジでは、医系総合大学である昭和大学の長をを活かした講義を幅広い人に向けて行い、社会人の知の探究の一助となり、新たな価値を生み出し、文化の発信・拠点となることを目的としています。医学、健康、歴史、運動、科学など幅広い分野の講座を開講し、講師と生徒とのコミュニケーションの活発さも大きな特徴です。本講座が皆さまにとって有意義なものとなるよう祈念しております」と祝辞を述べた。



1 前奏：昭和大学管弦楽団 2 講師紹介



また、小口勝司理事長、久光正学長より、知の探究に臨む受講生に対し、激励を込め祝辞が寄せられた。

秋期プログラムを受講する172名は、今後多彩なプログラムを受講し、学びを深めていく。

附属高等学校の生徒と保護者が専門的な学修も体験 富士吉田キャンパスで施設見学

8月28日、本学の特別協定校である昭和女子大学附属昭和高等学校の生徒と保護者を対象に、富士吉田キャンパスの施設見学会を実施した。

参加した生徒は入学後に実際に生活することになる寮について、とても関心が高く、沢山の質問を交えながら見学し、学生食堂での昼食も体験した。

体験実習では、血圧測定や気道異物除去、骨の模型を使った骨学実習など専門的な学修の前に緊張の面持ちを浮かべながら真剣に取り組んでいた。

今後も両校は様々な相互交流を通じて、高大連携を強めていく。



1 寮見学 2 体験実習：気道異物除去 3 体験実習：血圧測定 4 記念撮影

学修者26名がより深い知識や進んだ技術を習得へ 大学院秋季入学式

10月3日、上條記念館にて令和6年度昭和大学大学院秋季入学式を挙行政した。

医学研究科18名、薬学研究科1名、保健医療学研究科博士前期課程7名が、研究者としてのスタートを切った。

久光正学長は告辞で「これまで学修したことを土台にして研鑽を重ね、より深い知識・進んだ技術を修得し、さらには新事実を見つけ出し、世の中に周知することが大学院の大きな目的であります。研究の中で苦労もあるかと思いますが、苦労した暁に見つけられた時の喜びは素晴らしいものです。皆さんの今後に期待しています」と述べた。

続いて、小口勝司理事長の祝辞、各研究科長からは挨拶とともに



1 告辞：久光正学長 2 式典の様子 3 昭和大学宣言の様子

に研究の進め方等についてのアドバイスがあった。

そして、昭和大学宣言の唱和、校歌斉唱が行われ、閉式となった。

入学式終了後は、研究科ごとにオリエンテーションが行われた。

医学部114名が至誠一貫の心で臨床実習に臨む 白衣授与式

10月4日、上條記念館で令和6年度医学部白衣授与式を執り行った。

同式は、臨床実習に臨むにあたり、白衣を授与して医療人を目指す者としての自覚を促し、心構えを新たにすることを目的に毎年実施している。

小風暁医学部長は告辞で、「これから実習に参加し、知識を深め、技術を高め、医療人としてふさわしい態度を養う機会がたくさんあると思います。その機会を活かし、自らの成長につなげなければいけません。そのためには、しっかりとした準備が大切です。実習に真摯に取り組み、至誠一貫を体現できる医師へと成長されますことを大いに期待しております」と述べた。

その後、4年生114名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。学生たちは真新しい白衣に袖を通し、これから始まる臨床実習への決意を新たにした。

列席者からの祝辞では、小口勝司理事長をはじめ久光正学長、吉田雅子昭和大学病院看護部長から激励の言葉があった。高橋寛昭と大学藤が丘病院長からは、ウィリアム・オセラーの言葉を引用し、「医学は教室で学ぶものではない。ベッドサイドで学ぶものである」この言葉を胸に焼き付けて、実習に臨んでいただければと思います。患者さんは皆さんを信頼して、実習に協力してくださることを忘れないでいただきたいと思います。患者さんに対して、常に真心を持って対応する、至誠一貫の心を忘れずに実習



1 白衣授与 2 告辞：小風暁 医学部長 3 代表者による昭和大学宣言 4 閉式後の様子 5 臨床研修医代表からの講話 6 記念撮影

に臨んでほしいと思います」と激励の祝辞が寄せられた。

続いて「先輩からの言葉」と題して臨床研修医代表の大島研さんから患者さんとの関わり方など、臨床実習での心得などについて講話があり、学生たちは熱心に耳を傾けていた。

最後に代表者による昭和大学宣言を行い、医療人としての誓いを新たに、閉式となった。

これから卒業まで、学生は本学附属病院および関連実習施設における実習課程で研鑽を重ねていく。

多くの保護者が指導担任と親睦を深める 父兄会富士吉田秋季部会

10月5日、令和6年度昭和大学父兄会富士吉田秋季部会を富士吉田キャンパスで開催し、1年次学生の保護者387名が出席した。

富士吉田校舎1号館第一講堂で行われた全体会議では、美島健二父兄会長、続いて小口勝司理事長、久光正学長、倉田知光富士吉田教育部長、小倉浩教育委員長による挨拶が行われた。

全体会議終了後、保護者の方と指導担任による面談がSGSセンターで行われた。指導担任は、学生の寮生活の様子や学習の成果などについて、保護者の方へ説明した。

また、保護者の方々にはキャンパス内を自由に散策していただき、食堂で学生と同じ昼食メニューを食べたり足湯につかったりと、富士吉田キャンパスでの学生生活の一部を体験していただいた。

懇親会にも多くの保護者の方にご参加いただき、指導担任を含め参加者間の親睦を深めていただいた。



1 挨拶：美島健二父兄会長 2 挨拶：小口勝司理事長
3 挨拶：久光正学長 4 懇親会の様子

懇親会も開かれ親睦が深まる 父兄会秋季部会に約600名が出席

10月19日、2024年度昭和大学父兄会秋季部会を旗の台キャンパスで開催し、医学部・歯学部・薬学部の学生の保護者約500名が出席された。

秋季部会は学部別に実施し、各学部部会が開かれ、学部長、学生部長、教育委員長等のあいさつ後、指導担任と保護者との個別面談が行われた。

その後、上條記念館地下1階富士桜（バンケットルーム）において懇親会が開催され、教育職員も交えて参加者間の親睦を深めていただいた。

また同日は、保健医療学部の父兄会秋季部会も横浜キャンパスで開催し、保護者93名が出席した。



1 挨拶：美島健二父兄会長 2 挨拶：小口勝司理事長 3 乾杯の挨拶：上條由美副理事長 4 懇親会の様子 5 指導担任との個別面談の様子

首都直下型の地震に備えて 旗の台キャンパスで避難訓練

10月16日、昭和大学旗の台校舎において避難訓練を実施した。

首都直下型の震度6強の地震が発生し、それに伴い1号館内で火災が発生した場合を想定した。職員・学生は、緊急地震速報をきっかけに倒れてくるものから離れる等、身を守る行動をとった。その最中に館内放送で火災の発生が周知され、同時に避難指示が出されると、避難場所へ向けて避難を開始した。

避難完了後には、非常時備蓄品の配布手順を確認するため、職員・学生1人につきペットボトルの水500ml 4本、アルファ米1袋、ライスクッキー 1袋を配布した。



1 災害対策本部への状況報告
2 避難者の様子 3 非常用備蓄品配布の様子

134柱の霊位の遺徳を偲び感謝し 医学の発展を誓う 令和6年度解剖慰霊祭

10月15日、令和6年度解剖慰霊祭を上條記念館にてしめやかに執り行った。

解剖慰霊祭は医療の進歩のため、ご献体された故人の遺徳を偲び感謝する式典である。

令和5年4月1日から令和6年3月31日までにご献体いただいた134柱の霊位が祀られ、参列者からご尊霊に対し、黙祷が捧げられた。その後、参列者全員が祭壇に献花を行い、ご冥福をお祈りした。

式典では、本田一穂教授(医学部解剖学講座顕微解剖学部門)が「医学教育と医療の発展のために御遺体を供して崇高なご意志を示された諸霊位に心より感謝いたします。今日の医学・歯学・薬学及び保健医療学の教育がこうした方々の善意に支えられていることをわれわれ医療従事者は忘れてはなりません。そして学生諸君は、将来、医師、歯科医師、薬剤師、看護師および理学・作業療法士として自己研鑽と真摯な努力を怠ってはなりません。今後も医学、歯学、薬学、保健医療学の向上と社会福祉に



1 弔辞を述べる歯学部学生代表 2 祭文を捧げる本田一穂教授 3 献花の様子 4 献花の様子

寄与するために努力を重ねることをお誓い申し上げます」と祭文を捧げた。

続いて、医学部と歯学部の学生代表が弔辞を述べた。医学部の学生は「生涯、医療者としてのあゆみをゆるめず、後世へこのバトンを繋ぎ、医療の礎を築いてまいります」と誓いを述べ、歯学部の学生は、「将来多くの人々の全身の健康を、口腔内から支え、社会に寄与できる医療人となるよう、より一層精進してまいります」と誓った。

4学部合同入試説明会を開催

10月12日、旗の台キャンパスにて4学部合同入試説明会を開催し、237名(対面79組127名、オンライン参加110名)の方が参加した。

全体説明会では、本学の特色や令和7年度入試について説明が行われた。また、個別相談コーナーを設置し、受験勉強や入学後の学生生活、卒業後の進路などについて、事務職員が相談に応じた。

当日は旗ヶ岡祭(大学祭)を開催しており、キャンパス全体が賑やかな雰囲気になっていました。



1 全体説明会の様子 2 個別相談の様子

お気軽にご相談を!!

◆ **万が一のための保障準備**

◆ **住宅ローン・資産運用** など

お問い合わせ・ご予約は
三井住友銀行 旗ノ台支店
東京都品川区旗の台1-4-15
TEL. 03-3785-3012

— 生協は学園生活のパートナーです —

昭和大学生協同組合

旗の台: 3788-2322 (内線) 8268 アミ: 3785-9729 (内線) 8369
吉田: 0555-23-8505 洗足: 3787-4432 横浜: 045-985-9624

世界初! 新しい抗がん機構とメカニズムが明らかに「Nature」に掲載

歯学部口腔生化学講座の塚崎雅之兼任講師(現:教授 ※掲載当時:東京大学大学院医学研究科/骨免疫学寄付講座 特任准教授)らの研究グループは、口腔がんの顎骨への近接に対し骨膜の細胞がプロテアーゼ阻害因子 Timp 1 を産生することでコラーゲンの防御壁を形成し、物理的に腫瘍の骨への浸潤を阻害することを見出し、非免疫系の細胞による全く新しい抗がん機構とその重

【塚崎雅之兼任講師(現:教授)のコメント】

口腔は、粘膜の直下に骨が存在するユニークな臓器です。口腔がんは粘膜で発生し、顎骨の周りを包む「骨膜」を乗り越えダイレクトに骨へと侵入することで患者の生命予後と QOL を顕著に増悪します。医学領域で数多くの研究が為されてきた乳がんや前立腺がんの「骨転移」では、がん細胞が血流を介して骨内部に侵入するため、がんと骨膜の関係はこれまで全く注目されてきませんでした。

今回、私が歯科医師として口腔がんに興味を持っていたこと、骨膜の研究をしていたこと(Tsukasaki et al., *Nature Com* 2022) が結びつき、口腔がん病態における骨膜の機能に注目した結果、骨膜が腫瘍の近接を認識して積極的に防御壁を作って身体を守ることを発見し、非免疫系による全く新しい抗がん機構とそのメカニズムを見出すことができました。

免疫系による抗がん効果の研究は免疫チェックポイント阻害薬をもたらし、2018年にはノーベル医学生理学賞の対象にもなりましたが、非免疫系による抗がん効果の研究は幕を開けたばかりの

要性を世界で初めて明らかにした。この研究成果は今後、がんの進行を抑える新しい治療戦略の開発につながる事が期待される。本成果は、2024年8月21日に英国科学誌「Nature」に掲載された。



塚崎雅之 兼任講師(現:教授)

未踏領域です。今後は本研究のコンセプトをさらに発展させていくと同時に、口腔のユニークさに立脚した歯科医師ならではの観点から生命科学のフロンティアを切り拓くような、特殊から普遍へ突き抜けるサイエンスを展開していきたいと思っています。

掲載誌/Nature

論文名/The periosteum provides a stromal defence against cancer invasion into the bone

著者/Kazutaka Nakamura, Masayuki Tsukasaki*, Takaaki Tsunematsu, Minglu Yan, Yutaro Ando, Nam Cong-Nhat Huynh, Kyoko Hashimoto, Qiao Gou, Ryunosuke Muro, Ayumi Itabashi, Takahiro Iguchi, Kazuo Okamoto, Takashi Nakamura, Kenta Nakano, Tadashi Okamura, Tomoya Ueno, Kosei Ito, Naozumi Ishimaru, Kazuto Hoshi and Hiroshi Takayanagi* *共同責任著者

DOI/10.1038/s41586-024-07822-1

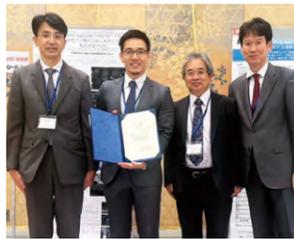
関連リンク/東京大学プレスリリース「がんの進展を骨膜が止めるーがんの進行を抑える新規治療の開発に道」chrome-extension://efaidnbmnnnibpcjpcgclcflefindmkaj/https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400245741.pdf

JSURT 口演最優秀賞

演題名 「前立腺癌に対する小線源治療後の血行性による線源移動に関する検討」

受賞者 菊池翔大 助教(医学部泌尿器科学講座)

日程: 2024年8月2日~3日: ウェスティン都ホテル京都



左から立石貴貴教授(東京医科歯科大学 放射線診断科)、菊池翔大助教、深井隆志教授、藤井靖久教授(東京医科歯科大学 泌尿器科学)

日本循環器学会 「Student Award」優秀賞

演題名 「内服歴と心電図波形からピルシカイニド中毒を疑い、後日血中濃度から確定診断に至り救命した高齢女性の1例」

受賞者 中野来美さん(医学部5年)

日程: 2024年9月7日: ステーションコンファレンス東京



左から、間瀬浩助教、中野来美さん

第79回日本消化器外科学会総会で優秀演題賞を受賞

武井稔弥専攻医(昭和大学病院消化器/一般外科)、井上高章研修医、医学部6年の浅見優太さんが第79回日本消化器外科学会総会(7月17~19日: 海峡メッセ下関)において優秀演題賞を受賞した。それぞれの演題名は以下の通り。

武井専攻医	「左胃動脈瘤に対して血管内治療施行し救命した1例」
井上研修医	「腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術後の続発性会陰ヘルニアに対し腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した1例」
浅見さん	「幽門狭窄を伴う切除不能進行胃癌に対しバイパス術後に化学療法を行いconversion手術が施行できた1例」

一般社団法人日本消化器外科学会は1968年に「消化器外科学の進歩と普及」を目的として発足され、19,000人を超える会員を擁する外科系サブスペシャリティ最大の学術団体である。

【武井稔弥専攻医のコメント】

この度、青木武士教授(医学部外科学講座消化器一般外科学部門)、伊達博三講師(同)をはじめとする医学部外科学講座消化器一般外科学部門の先生方のご指導を賜り、第79回日本消化器外科学会総会において優秀演題賞をいただくことができました。心より感謝申し上げます。

稀有である左胃動脈瘤破裂の症例報告を行いました。本症例を通じて、様々な知識・知見を得ることができ、また同時に評価いただくことができ大変嬉しく思います。消化器外科医としてのキャリアは始まったばかりではありませんが、素晴らしい諸先輩方・同期に恵まれ、日々成長を実感し充実した生活を送れていることはこの上ない幸せです。他の医療従事者との連携を大切に、今後とも患者さんに安全で安心な医療が提供できるよう日々の業務・学術活動に取り組んで参りたいと思います。今後も皆様のお力添えを頂きながら、この賞を誇りに一層精進して参ります。ありがとうございました。

【井上高章研修医のコメント】

この度、青木武士教授、渡邊良平講師をはじめとする医学部外科学講座消化器一般外科学部門の先生方のご指導を賜り、第79回日本消化器外科学会総会において優秀演題賞をいただくことができました。初めての学会発表ということもあり、なにかと慣れないところもあり、不安ばかりでしたが、先生方のご指導の下、丁



1 左から、伊達博三講師、武井稔弥専攻医、青木武士教授
2 左から、青木武士教授、井上高章研修医、渡邊良平講師
3 左から、青木武士教授、浅見優太さん、山崎公靖准教授



寧に教えていただき深く感謝申し上げます。

今回、腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術後の続発性会陰ヘルニアに対して腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した1例を経験しました。日本においても、それほど多い症例ではないため、とても貴重な経験をすることができ、また、将来自分が手術する際にも十分に注意し、執刀していきたいと思えることができました。今回の機会を活かし、今後とも日々の業務・学術活動により取り組んでいきたいと考えております。この度、私がこのような名誉ある賞を受賞いただけたのは、諸先輩方のご指導、切磋琢磨し合える同期の存在や私共の医療に同意して下さった患者さんのお陰であると感謝申し上げます。今後もこの賞を誇りにより一層精進して参ります。

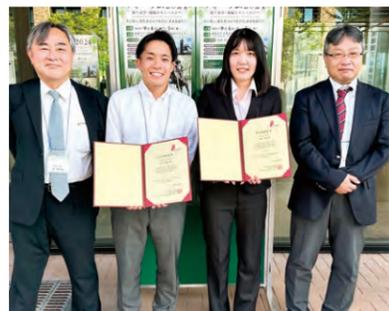
【浅見優太さんのコメント】

この度、青木武士教授、山崎公靖准教授をはじめ、医学部外科学講座消化器一般外科学部門の先生方のご指導とご協力のもと、第79回日本消化器外科学会総会において優秀演題賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。

今回は、幽門狭窄を伴う切除不能進行胃癌に対してバイパス術後に化学療法を行い、conversion手術を施行できた症例について報告いたしました。この症例から、化学療法による腫瘍縮小後の根治手術が進行がんや転移がんの患者において長期生存率の向上に寄与する重要な治療選択肢であることが示されました。右も左も分からない中、抄録作成から発表スライド作成、プレゼンテーションの練習までご支援いただいたこと、心より感謝申し上げます。学生の身でありながらこのような学会発表の機会をいただき、名誉ある賞まで受賞できたことは、今後の医師人生において掛け替えのない貴重な経験となり、必ず自分の成長に繋がると感じております。この学びを糧に、臨床と学術活動の両面でさらなる研鑽を積んで参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

フォーラム2024：衛生薬学・環境トキシコロジーにて実行委員長賞を受賞

薬学研究科1年の本沢駿弥さん（薬学研究科衛生薬学分野）、薬学部4年の田中萌さん（研究配属先：薬学部社会健康薬学講座衛生薬学部門）が、フォーラム2024：衛生薬学・環境トキシコロジー（9月4日～5日：東北大学青葉山キャンパス）で、実行委員長賞を受賞した。同フォーラムは、日本薬学会の環境・衛生部会による学術年会であり、疾病予防や健康維持・増進に関する学術・研究の推進に目標を置き、関連する基礎および応用分野の研究者の研究発表、知識の交換ならびに研究者の連携の場を提供することを目的としている。本沢さんは演題名「炎症反応制御におけるプロス



左から、原俊太郎教授、本沢駿弥さん、田中萌さん、松沢厚フォーラム2024実行委員長（東北大学大学院薬学研究科教授）

タサイクリン合成酵素（PGIS）の機能解析」の発表、田中さんは演題名「ACSL4はフェロトーシスを介し腸炎誘導大腸がんの促進に関与する」の発表が評価され、同賞に選定された。

【田中萌さんのコメント】

この度は、フォーラム2024：衛生薬学・環境トキシコロジーにて、実行委員長賞という素晴らしい賞を頂き大変光栄に存じます。本研究では、大腸がんをはじめとした発がんに対するACSL4の役割を明らかにすることを目的として、腸炎誘導大腸がんモデルマウスを用い、フェロトーシスの観点から大腸がんにおけるACSL4の役割について検討しました。日本人の死因の上位である大腸がんに対して、今回の研究結果がいくつか多くの患者さんを救うことにつながれば良いと感じております。今回の経験を糧に、さらなる自己研鑽に努めてまいります。

本研究の遂行にあたり、日頃よりご指導を頂いております原俊太郎教授、桑田浩准教授、落合翔助教をはじめ、薬学部社会健康薬学講座衛生薬学部門の先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

関連リンク／日本薬学会 環境・衛生会 https://bukai.pharm.or.jp/bukai_kanei/ フォーラム2024：衛生・環境トキシコロジー <https://www.senkyo.co.jp/eiseiforum2024/>

【本沢駿弥さんのコメント】

この度は、フォーラム2024：衛生薬学・環境トキシコロジーにおいて、実行委員長賞という素晴らしい賞を頂き、大変光栄に存じます。

本研究は、炎症反応制御におけるプロスタサイクリン合成酵素（PGIS）の機能解析ということで学部生の頃より研究を続けてまいりました。PGISは炎症反応に関与することが報告されており、当研究室においてもPGISが炎症反応に対して促進的に関与することをこれまで報告してきました。しかしながら、今回、促進とは逆に炎症反応において抑制的にPGISが関与することを発見しました。今後はさらに詳細な機能について解析を行うことで、これからの医療の発展に貢献できたいと思っています。今回頂いた賞を糧にこれからも自己研鑽してまいります。

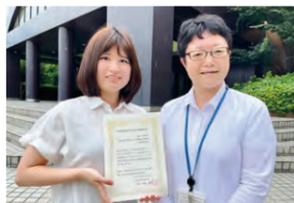
本研究遂行にあたり、日頃よりご指導いただいております原俊太郎教授、桑田浩准教授、落合翔助教をはじめ、薬学研究科衛生薬学分野の先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日本社会薬学会 学部学生優秀発表賞

演題名 「市販薬の乱用を目的とした大量・頻回購入の抑止に繋がる販売体制の検討-1」

受賞者 栗山琴音さん（薬学部6年）
研究配属先：薬学部社会健康薬学講座社会薬学部門

日程： 2024年9月7日～8日：第一薬科大学／福岡県福岡市



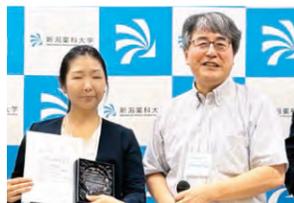
（左から）栗山琴音さん、岸本桂子教授

日本薬学会関東支部 奨励賞

演題名 「プロスタグランジン合成酵素の発がんへの関与の解析」

受賞者 佐々木由香 講師（薬学部社会健康薬学講座衛生薬学部門）

日程： 2024年9月14日～15日：新潟薬科大学新津キャンパス



左から佐々木由香講師、青木淳賢 日本薬学会関東支部長（東京大学大学院薬学系研究科教授・東北大学名誉教授）

Database

令和6年度

科学研究費助成事業採択課題一覧

令和6年度の科学研究費助成事業の交付は全体で338件が採択され、総計で3億9,818万円が交付される。各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

■ 医学部：136件 1億7,535万円	■ 歯学部：84件 1億470万円	■ 薬学部：45件 4,583万円
■ 保健医療学部：36件 3,180万円	■ 富士吉田教育部：4件 760万円	■ 研究所等：33件 3,290万円

今号では、歯学部と薬学部の一覧を掲載する。

※所属・役職は令和6年5月交付時点

歯学部

研究種目	所属／部門	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
基盤研究(B)	口腔生化学	講師	矢野 文子	4,000,000	関節の恒常性を司る、滑膜と軟骨の連関制御機構の解明
	歯科補綴学／歯科補綴学部門	教授	馬場 一美	5,100,000	睡眠時ブラキシズムの発症経路解明に向けたレジストリ構築と疾患iPSモデルでの検証
	口腔病態診断科学／口腔病理学部門	教授	美島 健二	4,300,000	エピジェネティック制御を介した唾液腺幹細胞における多分化能維持機構の解明
		准教授	安原 理佳	4,000,000	上皮間葉転換誘導転写因子による細胞可塑性制御の解明
	口腔解剖学	准教授	田中 準一	5,100,000	ヒトiPS細胞由来唾液腺オルガノイドと大量培養系を用いた新規唾液腺再生医療の構築
		講師	吉村 健太郎	1,200,000	ケトジェニックダイエットが骨格成長に及ぼす影響の解析
	口腔生理学	講師	福島 美和子	1,400,000	新規塩素チャネルTtyh3分子の交感神経性唾液分泌における役割の解明
		教授	中村 史朗	1,000,000	摂食機能の発達におけるセロトニン神経系の役割の解明
	口腔微生物学	客員教授	池田 啓子	900,000	Naポンプ神経疾患の症状発現トリガー物質、アスコルビン酸が神経系に及ぼす基盤解明
		准教授	中山 希世美	1,000,000	遺伝子工学を用いた孤東核嚙下ニューロンの網羅的解析
基盤研究(C)	口腔生化学	講師	望月 文子	700,000	グリシン受容体を基軸とした神経系と骨組織の組織間クロストークの解明
		助教	笹 清人	900,000	ヒストンラクチル化による骨リモデリング制御機構の解明
	口腔微生物学	兼任講師	須澤 徹夫	900,000	歯原性細胞に依存しないPS細胞によるエナメル芽細胞誘導と歯胚作成技法の創出
		教授	桑田 啓貴	1,400,000	マウスモデルにおける誤嚥性肺炎と常在細菌叢の肺-腸管クロストークの解析
	歯科薬理学	助教	黒澤 実愛	1,100,000	口腔内細菌に対する唾液腺のB細胞恒常性維持メカニズムの解明
		助教	深町 はるか	1,700,000	口腔・腸管に定着するクレブシエラ菌の環境適応と病原性発現との関連
	歯科理工学	准教授	茶谷 昌宏	1,800,000	in vivo 原始（初期）マクロファージ分化機構の解明
		准教授	荻野 玲奈	2,100,000	漂白治療の応用による幼若永久歯の抗齲蝕作用
	口腔衛生学	助教	菅森 泰隆	1,100,000	BMP-2に代わる局所の骨造成法の開発と新生骨の機械的特性評価
		教授	弘中 祥司	900,000	超音波エコーを用いた口腔機能発達不全の早期発見方法の確立
歯科保存学／歯周病学部門	准教授	渡邊 賢礼	1,300,000	顎・舌の運動と筋量・筋質から咀嚼機能を評価する	
	講師	伊澤 光	600,000	光学印象採得データを用いた新たな個人識別法の開発	
歯科保存学／歯内治療学部門	講師	石崎 晶子	1,000,000	低出生体重児に対する口腔周囲筋の筋強度を指標とした口腔機能発達支援方法の確立	
	教授	山本 松男	1,800,000	加齢育成マウスを用いた歯肉接合上皮組織の老化メカニズムの解明	
歯科補綴学／歯科補綴学部門	講師	小出 容子	900,000	プレコンセプションケアでの口腔管理の必要性を不育早産FGR患者細菌叢から検証する	
	助教	相澤 怜	1,200,000	歯肉接合上皮の歯周組織防御機構にCdc42が果たす役割の解明	
歯科補綴学／歯科補綴学部門	助教	浦羽 真太郎	1,900,000	口腔内スキャナーを用いた歯質切削モニタリングシステムの開発	
	准教授	高場 雅之	1,300,000	振動刺激型スプリントによる睡眠時ブラキシズム抑制効果の長期持続性の検討	
歯科補綴学／歯科補綴学部門	准教授	田中 晋平	700,000	デジタル印象の精度向上補助デバイスの製品化に向けたin vivoにおける検証	
	講師	安部 友佳	1,000,000	睡眠時ブラキシズム患者特異的な神経生理学的機能変化の検証	

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名	
歯科補綴学/歯科補綴学部門		講師	三田 稔	400,000	機械学習を用いた口腔機能検査と口腔関連QoLの相関アルゴリズムの構築	
		助教	浦野 絵里	1,000,000	神経堤由来幹細胞を用いたバイオハイブリットジルコニアインプラントの開発	
		助教	松本 貴志	1,000,000	睡眠時ブラキシズム発症メカニズム解明に向けた疾患特異iPS細胞を用いた基盤研究	
		兼任講師	横山 紗和子	800,000	可撤性義歯装着者における栄養状態に対する補綴治療と食事指導の関連性の検討	
	歯科補綴学/顎関節症治療学部門	教授(員外)	菅沼 岳史	700,000	パラファンクションによる歯の接触頻度と咬合力が歯根膜感覚に及ぼす影響	
		教授	代田 達夫	1,200,000	神経障害性疼痛の病態におけるTRPV1 Self-activation仮説の立証	
	口腔外科学/顎顔面口腔外科学部門		准教授	大場 誠悟	1,400,000	高機能細胞(E-MNC)由来エクソソームによる放射線性顎骨壊死の新規治療法の開発
			講師	佐藤 仁	1,700,000	神経障害性疼痛におけるアンギオテンシンII受容体の関与
			講師	椋代 義樹	400,000	口腔扁平上皮癌細胞における低酸素抵抗因子としてのスプラバシンの役割の検索
	基盤研究(C)	歯科矯正学	教授	中納 治久	1,200,000	アライナー型矯正装置が発生する矯正力の生体力学的研究
		准教授	芳賀 秀郷	1,000,000	超音波診断装置から得た口腔周囲筋性質に関連する不正咬合の機能的診断法の創出	
	口腔病態診断科学/口腔病理学部門	助教	行森 茜	900,000	Foxc1によるFgfr2発現機構の解明	
	口腔病態診断科学/歯科放射線医学部門	特任教授	荒木 和之	800,000	敵対的生成ネットワークと説明可能AIの組合せによるパノラマX線画像の自動診断の検討	
	インプラント歯科学	講師	山口 菊江	900,000	予知性の高いサイナスリフトのプロトコルの確立	
小児成育歯科学		講師	杉山 智美	100,000	医療面接における客観的評価方法の開発ー音響分析を用いた評価についてー	
		助教	新田 雅一	600,000	ジュニアアスリートへの新規素材を応用したスポーツマウスガードの開発	
口腔健康管理学/口腔機能リハビリテーション医学部門		准教授	伊原 良明	1,100,000	口腔機能による閉塞性睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング、筋機能訓練の効果の検討	
		助教	那小屋 公太	1,000,000	口腔機能に関わる島皮質の役割の解明	
	口腔健康管理学/口腔機能管理学部門	教授	古屋 純一	700,000	要介護高齢者の舌機能低下を代償する有床義歯形態のデジタル技術を用いた解明	
	全身管理歯科学/歯科麻酔科学部門	准教授	西村 晶子	1,300,000	短時間作用性全身麻酔薬レミゾラムが脳神経発達に与える影響	
	歯学教育学	助教	鯨岡 聡子	1,300,000	唾液腺腫瘍における腫瘍性筋上皮細胞の新規マーカーの開発	
	口腔解剖学	講師	井上 知	1,000,000	長骨骨幹端の修復過程における炎症動態の解明	
	口腔生理学	助教	壇辻 昌典	900,000	セロトニン神経系に着目した、咀嚼運動を制御する神経回路の解明	
歯科理工学		講師	渡邊 知恵	300,000	老化抑制遺伝子欠損マウスの切歯を用いた加齢に伴う硬組織劣化機構の材料学的分析	
		助教	周 君	1,500,000	Amelioration of temporomandibular joint osteoarthritis with Wwp2 message RNA therapy	
若手研究		助教	小原 大宜	600,000	睡眠時ブラキシズムのデータベース構築および疾患構造の解明	
		助教(歯科)	大澤 昂史	700,000	Ce-TZP/Al2O3インプラントにおける軟組織封鎖性の検証	
		兼任講師	青木 理紗	600,000	オクルーザルスプリント型診断装置による新たな睡眠時ブラキシズム診断の有用性の検証	
	歯科補綴学/歯科補綴学部門	兼任講師	中井 健人	700,000	睡眠時ブラキシズム患者に特異的な細胞間ネットワークの解明と疾患モデルへの展開	
		兼任講師	楠本 友里子	1,700,000	無歯顎者への補綴治療と食事指導による栄養状態の変化についてのランダム化比較試験	
		兼任講師	飯泉 亜依	900,000	CAD/CAM技術とスプリント摩耗評価に基づく睡眠時ブラキシズム診断手法の確立	
		兼任講師	栢 澤那	1,400,000	フェイススキャン応用によるCAD/CAMの精度向上と臨床応用戦略の研究	
	歯科補綴学/顎関節症治療学部門	兼任講師	佐藤 多美代	700,000	覚醒時ブラキシズムの発生と脳血流酸素動態の関係	
	口腔外科学/口腔腫瘍外科学部門	助教	安部 勇蔵	600,000	低酸素・低栄養状態の口腔扁平上皮癌細胞におけるTPD52の機能解明	
		兼任講師	稲田 大佳暢	700,000	シェワン細胞調節性オートファジーが末梢神経損傷後の神経再生に与える影響の解明	
口腔外科学/顎顔面口腔外科学部門		兼任講師	高松 弘貴	1,500,000	シェーグレン症候群患者へ対する新規治療方法の開発	
		兼任講師	栗原 舞	1,600,000	口腔扁平上皮癌細胞の抗癌剤耐性に関するTPD52ファミリーの役割の検索	
		兼任講師	檜原 峻	1,100,000	マイクログラフトを応用した頸部郭清術後瘢痕拘縮に対して治療法の開発	
歯科矯正学	兼任講師	鬼丸 美菜子	700,000	機能的顎矯正装置により発生する荷重ベクトル計測システムの確立		

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
若手研究	口腔病態診断科学/口腔病理学部門	助教	石田 尚子	1,700,000	ヒト唾液腺オルガノイドを用いたPLAG1遺伝子の解析
	口腔健康管理学/口腔機能管理学部門	兼任講師	渡辺 昌崇	1,700,000	ICTを活用したオンライン口腔健康状態評価法の確立
		講師	野末 真司	300,000	頸部聴診法を用いた咽頭通過時における食塊形成の診断精度の解明
	口腔健康管理学/口腔機能リハビリテーション医学部門	兼任講師	小池 丈司	300,000	頭頸部がん治療後の口腔乾燥に対する新規治療法の確立
		兼任講師	田下 雄一	300,000	早期社会復帰に向けた嚥下訓練支援アプリ使用によるQOLおよび全身・嚥下機能の変化
	全身管理歯科学/歯科麻酔科学部門	助教	梶原 里紗	2,000,000	最後野に存在するPhox2b陽性ニューロンの術後悪心嘔吐への機能的役割の解明
		講師	松井 庄平	1,300,000	口腔内細菌叢ディスバイオーシスが認知症に及ぼす影響の解明
	全身管理歯科学/医科歯科連携診療歯科学部門	助教	菊池 真理子	1,200,000	ストレス誘導性口腔内細菌叢のバランス異常に対する唾液メラトニンの影響の解明
	全身管理歯科学/障害者歯科学部門	講師	嘉手納 未季	1,400,000	自閉症患者への新しい行動変容法の開発ーARの応用によるトークンエコノミーー
	若手研究(B)	口腔健康管理学/口腔機能リハビリテーション医学部門	兼任講師	石川 万里子	(※1) 0
研究活動スタート支援		助教	森川 金汰	1,100,000	新たな3次元6自由度下顎運動測定方法の開発
	歯科矯正学	助教(歯科)	河合 良太	1,100,000	超硫黄分子による変形性膝関節症治療候補薬の開発基盤の構築
		助教(歯科)	小山 菜	1,100,000	除脳灌流標本を用いた嚥下中枢パターン発生器の光学的解析
		助教(歯科)	高橋 侑嗣	1,100,000	歯周組織再生を目的としたヒトiPS細胞由来歯根膜細胞の誘導法の確立
	全身管理歯科学/障害者歯科学部門	助教(歯科)	佐藤 ゆり絵	1,100,000	食事の脂質とコレステロールが硬組織に与える影響の解明

※1: 研究中断に伴う継続課題のため、本年度分の入金無し

薬学部

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
若手研究	基礎薬学/医薬化学部門	教授	福原 潔	1,000,000	アミロイドβ切断活性を有するアルツハイマー病治療薬の開発
	基礎薬学/生物物理化学部門	教授	合田 浩明	400,000	量子化学計算に基づいたリガンド結合部位の分子相互作用場算出法の開発
		講師	早川 大地	2,200,000	非典型相互作用を記述する3次元関数の算出とin silico SBDD/FBDD技術への応用
	基礎薬学/生物化学部門	教授	板部 洋之	1,300,000	Sar1bの機能に基づいた新たな細胞内脂肪滴の形成制御因子群の探索
		准教授	小濱 孝士	1,000,000	血管内皮細胞機能に及ぼす好中球細胞外トラップとリポタンパク質の影響
		講師	牧山 智彦	1,400,000	NEK2Aによる脂質代謝を介したがん細胞の特質変化制御機構の解明
	基礎薬学/腫瘍細胞生物学部門	教授	柴沼 質子	800,000	呼吸鎖活性一代謝ストレス応答系の共役機構の破綻に基づく臓器横断的癌治療薬の提案
		准教授	森 一憲	800,000	転移抑制を目指したRac1によるintegrinβ4の分解抑制機構の解明
	基礎医療薬学/毒物学部門	教授	沼澤 聡	1,400,000	薬物中毒治療に活用可能な過量投与時のトキシコネティクス情報の集約
		准教授	芦野 隆	1,200,000	NAFLD/NASH克服を指向した酸化ストレス応答系による肝線維化抑制機能の解明
基盤研究(C)		講師	光本 明日香(貝崎)	1,200,000	ADHD治療薬のDOHaD影響ーエピジェネティクス作用と発達障害ー
	基礎医療薬学/薬理学部門	准教授	柴田 佳太	800,000	真菌由来天然物を用いた糖尿病性腎症の新たな治療戦略の構築
	基礎医療薬学/薬理学部門	准教授	原田 努	900,000	とろみ水を用いた服薬における錠剤の崩壊遅延機構の解明と改善方法の検討
		講師	齊藤 清美	800,000	低侵襲かつ簡便な統合失調症評価指標の確立:唾液アディポネクチンを用いて
	基礎医療薬学/薬物動態学部門	講師	田島 正教	1,100,000	運動誘導性摂食抑制物質の経口製剤化へ向けた基礎研究
	社会健康薬学/衛生薬学部門	客員教授	姫野 誠一郎	1,400,000	ヒ素の血管毒性および筋肉毒性の機構解明
		講師	依田 恵美子	900,000	雌性生殖を制御する膜リン脂質代謝酵素の機能解析
		講師	佐々木 由香	1,300,000	プロスタサイクリン合成酵素の乳がんにおける役割の解析
	社会健康薬学/薬剤疫学部門	教授(員外)	今井 志乃ぶ	400,000	処方カスケードによる医療費増大の可視化ーカルシウム拮抗薬とループ利尿剤を例にー
	臨床薬学/薬物治療学	教授	向後 麻里	1,500,000	医療ビッグデータを活用した心不全患者の新規心不全治療薬併用療法の治療指針の開発
臨床薬学/天然医薬治療学	教授	川添 和義	900,000	漢方薬を活用した口腔乾燥改善薬開発ーiPS細胞と臨床による検証ー	
臨床薬学/がんゲノム医療薬学部門	教授	藤田 健一	1,100,000	肝がん患者でのアルブミン低下と治療薬レンパチニブの遊離形体内動態・薬物応答の関連	
臨床薬学/臨床栄養代謝学部門	准教授	唐沢 浩二	800,000	プレバイオティクス含有栄養剤と医薬品の相互作用の解明	

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(C)	病院薬剤学	准教授	須永 登美子	30,000	有害事象報告データおよびレセプトデータを用いた薬物相互作用に関する研究体制の構築
		准教授	百 賢二	700,000	化学療法・放射線療法誘発性の重篤な口腔粘膜炎の疼痛緩和を目指した局所製剤の開発
	基礎薬学/医薬化学部門	講師	水野 美麗	2,000,000	筋力トレーニングに伴う酸化ストレスの制御に有用な抗酸化物質の探索
	基礎薬学/生体分析化学部門	講師	松林 智子	700,000	簡便な生薬成分分析による品質管理法の確立-TLC-MS、蛍光指紋測定法を用いて-
	基礎薬学/生物物理化学部門	助教	渡邊 友里江(小田)	200,000	新規慢性疼痛治療薬開発のための、PAC1Rを標的としたin silico創薬
	基礎薬学/生物化学部門	助教	山口 智亮	1,300,000	非アルコール性脂肪肝炎に対するホスファターゼ活性阻害物質の治療メカニズムの解析
	基礎医療薬学/薬理学部門	助教	篠内 良介	(※1) 0	「さする」様な機械刺激に注目したバクリタキセル誘発性末梢神経障害の解明
	基礎医療薬学/生理学部門	助教	中野 僚太	900,000	関節リウマチ合併妊娠が誘導する次世代のADHD発症のメカニズム解析
	社会健康薬学/薬剤疫学部門	講師	池谷 怜	600,000	かかりつけ薬剤師制度アウトカム評価および経済評価エビデンスの創出
	臨床薬学/がんゲノム医療薬学部門	講師	松本 奈都美	1,200,000	カベシタピンの体内動態・毒性と核酸を輸送するトランスポーターの遺伝子多型との関連
		講師	半田 智子	700,000	アプリを用いた免疫チェックポイント阻害薬治療中のがん患者の副作用管理
若手研究	臨床薬学/臨床研究開発学部門	教授(員外)	肥田 典子	800,000	川崎病患児へのアスピリンミナプレットの適応～ミナプレットの実用化を目指して
		講師	山崎 太義	200,000	とろみ調整食品併時の抗菌薬への影響～健康成人を対象とした薬物動態の検討～
		講師	市村 丈典	500,000	リアルワールドデータに基づく切除不能・進行再発非小細胞肺がん治療薬の費用効用分析
		講師	詫間 章俊	600,000	集中治療室における抗菌薬適正使用支援プログラム実践手法の構築と人的資源の検討
	病院薬剤学	助教	磯部 順哉	1,200,000	食道がん周術期における免疫疲弊とディスバイオーシスが免疫療法に与える影響
		助教	永尾 美智瑠	400,000	ブレガバリン経皮吸収製剤の安定性・安全性の確立
		助教	守屋 賀奈絵	2,200,000	抗菌薬の不適正使用から子どもを守る一疫学・実学・フィールドワーク融合型研究一
		助教	石井 俊一	1,600,000	ビノレルピンにより引き起こされる血管炎及び血管痛の予防方法の確立
		助教	三井 奈緒	1,400,000	PHの変動が半固形化栄養法の粘性と下痢抑制効果に及ぼす影響の解明
研究活動スタート支援	基礎医療薬学/生理学部門	助教	中野 僚太	1,100,000	中枢神経系用薬の精子DNAメチル化変化を介した次世代の発達への影響の解明
国際共同研究強化(B)	社会健康薬学/衛生薬学部門	客員教授	姫野 誠一郎	2,900,000	ヒ素による代謝性疾患発症機構の解明を目指すフィールド・基礎融合研究

※1: 研究中断に伴う継続課題のため、本年度分の入金無し

次号 (Dec.2024 - Jan. 2025) では、保健医療学部と富士吉田教育部、研究所等の一覧を掲載する。

令和6年度秋季・令和7年度春季I期

大学院入学試験結果

研究科	試験区分	日程	募集人員	志願者数	合格者数
医学研究科	秋季	2024年 8月17日	若干名	18	18
	春季I期		60	10	10
歯学研究科	秋季	2024年 8月17日	若干名	0	0
	春季I期		22	9	9
薬学研究科	秋季	2024年 8月24日	若干名	1	1
	春季I期		15	14	12
保健医療学研究科	博士前期課程	2024年 8月24日	若干名	12	7
	博士後期課程		若干名	0	0
合計			-	64	57

令和7年度

助産学専攻科入学試験結果

日程	募集人員	志願者数	合格者数
2024年10月5日	15	87	14

修了生・新入生一覧 昭和大学大学院

令和6年度秋季修了生

医学研究科 | 20名

石井 弘毅・イズデプスキ 龍也・上杉 由香・大西 良尚・鎌田 行識・木村 太郎・渋谷 友香・田崎 太郎・谷藤 暁・長崎 計・中澤 幹・二階堂 裕士・西川 晶子・西村 公太・平澤 優弥・平松 綾・福田 貴巳佳・村山 正和・望月 碧・山本 謙

歯学研究科 | 4名

大竹 開・戸田山 直輝・西田 訓子・山下 晃平

薬学研究科 | 7名

安藤 睦実・小野 航太郎・川村 ひとみ・島崎 良知・三刀屋 亮・宮澤 真帆・村岡 健太

保健医療学研究科前期 | 2名

古澤 亜希子・山本 剛史

保健医療学研究科後期 | 3名

熊沢 真弓・藤井 智希・渡邊 修司

令和6年度秋季新入生

医学研究科 | 18名

新井 元・岡嶋 梨央・兼瀬 顯・高山 愛利佳・玉井 智・塚本 大樹・中山 真悟・奈良 英莉香・西尾 拓実・林 秀憲・プーチアン ジェリーナ・藤井 伸行・藤原 広喜・堀井 啓士朗・三浦 淳・宮本 庸平・康野 皓嗣・横山 貴久

薬学研究科 | 1名

富谷 聡学

保健医療学研究科前期 | 7名

安藤 貴紀・北本 菜由佳・須藤 環・永里 咲恵・松田 梢・松本 美並・山口 雄士

夏季スポーツ大会競技結果

8月に実施された第67回東日本医科学生総合体育大会と第56回全日本歯科学生総合体育大会の8位までの入賞は次のとおり。

第67回東日本医科学生総合体育大会

競技種目	競技結果(団体・個人・総合)
準硬式野球男子	ベスト8
軟式庭球	第2位 (医学部6年 佐藤 貴文、男子ダブルス 栗石 綜平)
軟式庭球	ベスト8 (医学部3年 棚井 聖麗、女子ダブルス 2年 松本 夏菜子)
軟式庭球男子団体	第6位 全医体出場
軟式庭球女子団体	第6位 全医体出場
バスケットボール男子	ベスト4 全医体出場 (医学部2年 石井 大介)
卓球男子シングルス	第8位 (医学部4年 境 大翔)

第56回全日本歯科学生総合体育大会

競技種目	競技結果(団体・個人・総合)
硬式庭球団体総合	第3位
硬式庭球男子団体	第4位
硬式庭球女子団体	第6位
バスケットボール男子	第6位
バレーボール男子	第3位
バレーボール男女総合	第2位
バレーボール女子	第3位
卓球個人	第2位 (歯学部5年 塩田 光太郎)
バドミントン女子ダブルス	第2位 (歯学部3年 大野 華穂、3年 五十嵐 舞)

競技種目	競技結果(団体・個人・総合)
バドミントン女子ダブルス	ベスト8 (医学部4年 堀部 希恵、2年 福満 怜)
柔道男子81kg級	第8位 (医学部4年 柏木 哲生)
剣道男子個人	第3位 (医学部5年 藤田 鉄平)
陸上男子400m	第6位 (医学部4年 田村 凜太郎)
陸上男子三段跳	第4位 (医学部6年 下島 颯太)
陸上女子100m	第8位 (医学部3年 清水 優希)
陸上女子200m	第5位 (医学部3年 清水 優希)
陸上女子400m	第4位 (医学部3年 清水 優希)
陸上円盤投げ	第5位 (医学部6年 野口 朋子)

競技種目	競技結果(団体・個人・総合)
馬術障害飛越個人	第2位 (医学部6年 西谷 秋星)
馬術馬場馬術部門団体	第6位 (医学部6年 窪田 和孝、西谷 秋星)
馬術団体総合	第6位 (医学部6年 窪田 和孝、西谷 秋星、2年 阿部 正、1年 池谷 優雅、小林 奈央)
水泳男子200m平泳ぎ	第5位 (医学部3年 山田 豊志大)
水泳男子100m平泳ぎ	第7位 (医学部3年 山田 豊志大)
水泳男子800m自由形	第2位 (医学部1年 丸一 叶人)
水泳男子400m自由形	第7位 (医学部1年 丸一 叶人)

競技種目	競技結果(団体・個人・総合)
バドミントン女子シングルス	第3位 (歯学部3年 大野 華穂)
バドミントン女子団体	第2位
バドミントン男女総合	第3位
空手道女子個人組手	第2位 (歯学部3年 玉城 栄美花)
陸上男子100m	第2位 (歯学部4年 宮定 太一)
サッカー	第5位
ゴルフ女子団体	第6位
水泳男子200m背泳ぎ	第4位 (歯学部6年 村崎 智仁)
水泳男子100m背泳ぎ	第8位 (歯学部6年 村崎 智仁)

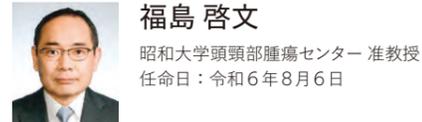
競技種目	競技結果(団体・個人・総合)
水泳男子400m自由形	第4位 (歯学部5年 華岡 修大)
水泳男子100mバタフライ	第6位 (歯学部5年 華岡 修大)
水泳女子50m平泳ぎ	第2位 (歯学部2年 数根 千乃)
水泳女子100m平泳ぎ	第2位 (歯学部2年 数根 千乃)
水泳女子200mメドレーリレー	第8位 (歯学部2年 志水 海那美、数根 千乃、千野 愛莉、渡邊 多奏音)
水泳女子200mフリーリレー	第7位 (歯学部2年 志水 海那美、数根 千乃、千野 愛莉、渡邊 多奏音)
水泳男子800mフリーリレー	第7位

学内会議報告



就任のお知らせ(8月6日 理事会承認)

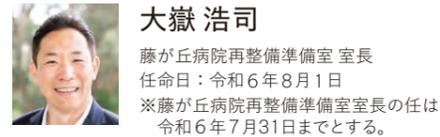
昭和大学頭頸部腫瘍センター 教授



福島 啓文

昭和大学頭頸部腫瘍センター 准教授
任命日：令和6年8月6日

教授(学長直属)
[業務内容：医療イノベーション担当]



大嶽 浩司

藤が丘病院再整備準備室 室長
任命日：令和6年8月1日
※藤が丘病院再整備準備室室長の任は
令和6年7月31日までとする。

理事会関係

◆名誉教授称号授与

稲垣 昌博 客員教授

医学部薬理学講座(医科薬理学部門) 担当
勤務地：旗の台校舎医科薬理学

◆薬学部病院薬剤学講座への部門設置について

変更前	変更後
	病院薬剤学講座 病院薬剤学部門
病院薬剤学講座 (※部門なし)	病院薬剤学講座 救命救急薬学部門
	病院薬剤学講座 がん薬物療法薬学部門

【設置日】 令和6年10月1日

◆大学院医学研究科3・4年次在学中の本院職員に対する 休職制度導入について

本院大学院医学研究科3・4年次に在学するに本院教育職員を対象として、令和7年4月からは休職制度が導入されることとなった。
【休職制度導入の目的】 本院大学院における研究を推進するとともに、教育職員の継続的な確保を図るため。

【休職中の待遇】

- ・給与・賞与 原則支給なし
- ・手当 原則支給なし
- ・私学共済の継続 希望する場合は継続可能(ただし自己負担額は当該職員が支払うこととする。4~12月分(12月入金)/1~3月分(3月入金)の年2回請求)
- ・その他 退職金の算定に当たり、算定基礎とする勤続

年数は退職金支給規程に則り休職前の期間から算定するが、当該休職期間は含めないこととする。

【休職期間】 制限は設けない

◆「昭和大学における研究インテグリティの確保に関する規程」制定

【制定趣旨】 研究活動の国際化、オープン化に伴うリスクに対して研究の健全性・公正性を確保するために必要な事項を定めるため。

【施行日】 令和6年9月10日

◆令和5年度私立大学等経常費補助金の確定

【確定額】 5,718,981千円

内訳	一般補助	5,454,649千円
	特別補助	264,332千円

◆特許権に係る実施補償金支給について

以下のとおり発明者へ実施補償金を支給する。

【対象の発明】 医療用姿勢保持用具(伏臥位用、脳外科用)、
頭部支持用具

【発明人】 医学部整形外科学講座 客員教授 神 與市
認定看護師教育センター 石橋 まゆみ

【実施料収入】 32,802円

【実施補償金(分配割合)】 大 学：19,682円(60%)
発明人：13,120円(40%)



昭友商事株式会社

昭和大学の皆さまへ
便利なサービス・商品を提供します!

昭和大学富士吉田の天然水

イベント業務委託

昭和大学オリジナルワイン

ローソン&タリーズ

QUOカード・VJAギフトカードなど その他色々!

お気軽にお問い合わせください! ☎ 3784-8280

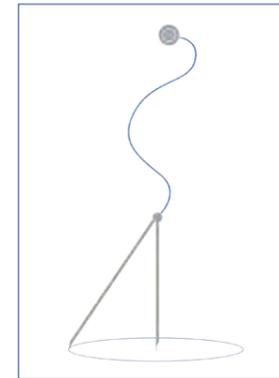
i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

上條記念ミュージアム

メディカルデザイン展 開催!

第6回企画展「メディカルデザイン展 —昭和大学メディカルデザイン研究所の試み—」が、昭和大学メディカルデザイン研究所(IMD: Institute of Medical Design)主催、上條記念ミュージアム共催で開催されています。IMD主催の「医療を支えるデザイン」をテーマとしたプログラムに参加した多摩美術大学プロダクトデザイン専攻の学生作品を中心に、今年度設立されたIMDの医療現場のQOL(Quality of Life)を高めるための試みを展示しています。



【開館】 火曜日・金曜日13:00~15:00(予約制)

皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

お問い合わせ 昭和大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



リカレントカレッジ事務局

昭和大学リカレントカレッジ 秋期プログラム開講

10月1日よりリカレントカレッジ秋期プログラムが開講しました。学歴や年齢を問わず、多くの方々がリカレントカレッジという新たな学びの場で共に学んでいます。また、対面とオンラインを併用したハイブリッド型講座では、全国各地から受講生にご参加いただいています。引き続き、申込受付中の講座もごございますので、ぜひお申し込みください。

昭和大学リカレントカレッジ 特別企画(冬)開催

この度、2024年度昭和大学リカレントカレッジ特別企画(冬)として、講演会を開催する運びとなりました。今回は、傘寿を超えた今もなお、月に1回ニッポン放送の人気番組のラジオパーソナリティを務める高嶋秀武氏をお招きし、講演会をお送りいたします。また、リカレントカレッジで講師も務めております昭和大学医学部法医学講座の城祐一郎教授にもご講演いただく、豪華二本

立てとなっております。

リカレントカレッジ受講生・本学教職員・本学学生は参加費無料となっておりますので、ぜひお問い合わせの上ご参加ください。



城祐一郎 教授(医学部法医学講座)

高嶋 秀武 氏(フリーアナウンサー)

第一部：「なぜ被疑者は取調官に真実を話すのか? ~人の心をひらくには~」(医学部法医学講座 城祐一郎 教授)

第二部：「アナウンサー生活60年 今思うこと ~世代間ギャップに悩まない 高嶋流会話術~」(フリーアナウンサー 高嶋 秀武 氏)

【日時】 2025年1月18日(土) 14:00~

【会場】 昭和大学上條記念館 上條ホール

【申込】 リカレントカレッジ受講生・本学教職員・本学学生のお申込み方法については、学内情報共有基盤・配信メール等でお知らせします。

※一般の方もご参加いただけます。下記チケットをお買い求めください。

【一般チケット販売】

料金 2,000円(全席指定) チケット好評発売中!

窓口 きゅりあん、スクエア荏原、メイプルカルチャーセンター、
O美術館

電話 03-5479-4140

…チケットセンターCURIA ※電話予約は座席選択不可

Web <https://www.shinagawa-culture.or.jp/>

…「しながわぶんか」で検索

お問い合わせ 昭和大学リカレントカレッジ事務局

電話：03-3784-8143

メール：recurrent@ofc.showa-u.ac.jp

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

総務部

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

父母／宮岡 友之 様

同窓／高須 克彌 様（医学部・37回生）

職員（50音順）／小玉 敦司 様、肥田 典子 様、龍 家圭 様

一般／小口 郁子 様、㈱柴橋商会 様、医療法人社団 瑞信会 理事長 板橋 仁 様、株式会社LIXIL 様、株式会社リジョイスカンパニー 様、橋本 洋喜 様

【各クラブ・学生会への寄付】

職員（50音順）／稲富 誠 様、龍 家圭 様

※収納期間：8月1日～9月30日

※本学広報媒体への掲載に同意していただけた方のみといたします

Follow Showa

X (旧Twitter)



昭和大学広報担当では日々のお知らせや大学キャンパス、各附属病院のイベント情報などをX (旧Twitter)、Instagramで発信中です。凛々しく研鑽に励む学生・職員の皆さんの姿や四季折々のキャンパス風景など、明るく元気にお伝えしていきますので、ぜひ昭和大学の「いいね!」な出来事を一緒にお楽しみください。

Instagram

創立100周年記念事業募金
ご支援のお願い

本学は令和10年（2028年）に創立100周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、教育・研究・診療体制の充実や更なる発展のため、創立100周年記念事業を策定いたしました。

経済情勢の厳しい折ではありますが、本学における重要な役割を担う記念事業の実現へ向け、新時代への道のりを皆様と共に歩みたいと切に願っております。

皆様には本学の取組みに対して、ご理解・ご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ 総務部企画課 企画サポート係

メール：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp

電話：03-3784-8387

FAX：03-3784-8012



今号の表紙写真

表紙は10月12日・13日に開催した旗ヶ岡祭から。

今年のスローガン「飛」には、大空を飛ぶように学生たちが活躍する姿が見られるようにしたいという想いがこめられています。期間中にはホームカミングデーも開催され、卒業生たちの母校を懐かしむ姿が見られました。秋の一大イベントを終え、ほっと一息のキャンパスは、11月15日に創立記念日を迎えました。引き続き、創立100周年に向けて、歩みを進めるキャンパスの様子をお伝えできればと思います。

SHOWA
UNIVERSITY
NEWS vol. 13Oct. - Nov. 2024
昭和大学新聞 通巻第622号
令和6年11月30日発行
年6回発行昭和大学
SHOWA University学校法人 昭和大学 (03) 3784-8000
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係
(03) 3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

記送停止
住所変更のご連絡は、
こちらにお願
いいたします。

【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
(0555) 22-4403 (富士吉田)
(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

! 個人情報の取扱いにご注意ください

昭和大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。



Press Release

昭和大学では最新の研究結果を外部（マスメディア）に発信しています。
ここでは、プレスリリースとして発信した記事を紹介しします。

電子カルテを活用した共同研究を開始 既存の医薬品の課題発掘を目指す



学 校法人昭和大学（所在地：東京都品川区／理事長：小口勝司）と株式会社ユカリア（本社：東京都千代田区／代表取締役社長：三沢英生）は、ユカリアが保有する電子カルテ由来の医療データを格納した「ユカリアデータレイク」を用いた医薬品開発シーズの発掘を目指した共同研究契約を2024年5月に締結し、研究を開始した。本研究では「ユカリアデータレイク」の特徴である、電子カルテ内のテキストデータ（患者さんの訴え、医師・薬剤師・看護師等の医療者の所見、ヒヤリハットなどのインシデントレポート）と医療情報の組み合わせ分析により、医薬品の「飲み込みにくさ／使いにくさ」や「医療安全の観点から見た医薬品自体の課題」などの医療現場の潜在的なニーズを網羅的に抽出し、製薬企業の医薬品開発に役立つ情報の構築、およびすでに市販されている医薬品に対して付加価値（患者さんにとって優しい薬となるような工夫）を高めるための知見を創出することを目指している。

■医薬品が患者さんの手に届くまで

薬の有効成分はわずかな量で人の体に大きな効果を発揮するため、機能性を付加した賦形剤^(※1)と混ぜ合わせたものを材料として錠剤、カプセル剤、坐剤をはじめとした普段我々が見慣れている医薬品の形に加工し、供給される。さらに、有効性や安全性の観点から局所で効果を発現させることが望ましい場合には、吸入薬、貼付薬、塗布薬などのさまざまな剤形で設計される。その際に、薬をより適切に使用できるような工夫が施された吸入器や注射器などのデバイスも併せて開発されることもある。

■研究の背景

一般に、医薬品が患者さんの手に届くまでには、製薬企業による有効成分の開発だけでなく、剤形の開発、吸入器や注射器などのデバイスの開発など、さまざまなステップが必要となる。一方で、すでに臨床で使用されている既存の医薬品のなかには、特に剤形、デバイスの操作性、使用感など必ずしも患者さんにとって最適でないケースもある。加えて、医療従事者の視点では医療安全の観点からさらなる工夫の余地があると思われることもある。しかしながら、このような患者さん・医療従事者の声を、医薬品開発や既存の医薬品の改良のためのヒントとなるように加工（定量的、定性的）し、抽出する取り組みはなく、製薬企業にとっても市場ニーズを網羅的に把握しづらいという課題がある。

■研究の内容と役割

本共同研究では、昭和大学薬学部病院薬剤学講座の百賢二准教授による「ユカリアデータレイク」の詳細な分析により、医薬品に関する潜在的な医療ニーズを網羅的に抽出し、製薬企業とのマッチングも視野に入れた効率的な医薬品開発のための情報を構築する。

本研究では、特に患者さんにとって優しい医薬品の開発候補となりうるような、「剤形」「使用感」「包装」等に主眼をおき、「飲みにくい」「使いづらい」という患者さんからの声や、「外観がそっくりで危ない」「患者さんへ使いづらい」といった医療従事者の声に関し、ユカリアデータレイクに格納された膨大なテキストデータと医療情報の組み合わせ解析により、ベッドサイドや診察室等の「困った」を見つけ、製薬企業による新たな医薬品開発や、既存の医薬品に対して付加価値を高めるようなヒントを定量的、定性的に抽出し、「もっと患者に優しい薬」が患者さんの手に届くようにすることを目指す。

■「ユカリアデータレイク」について

データレイクとは、大量の構造化データ、半構造化データ、非構造化データを保存、処理、保護するための、一元化されたリポジトリ（格納場所）のこと。

ユカリア独自の「ユカリアデータレイク」の特徴は、定量的なデータだけでなく定性的なテキストデータを分析に用いることができる点である。医師の診察時の所見記録や、病棟で患者さんに長時間接しケアを行う看護師の看護記録といった大量の定性情報から、患者さんの治療実態を多角的に把握することができる。

また、最長10年程度の長期間にわたり一人の患者さんの症状の変遷を参照できる点も特徴。データ提供元の病院群は、急性期から回復期、慢性期、療養まで幅広い機能を有する市中の病院となっている。そのため継続的に通院する患者さんも多く、長期間の治療経過観察が可能。

リリース時タイトル／昭和大学と株式会社ユカリアが電子カルテ由来の「ユカリアデータレイク」を活用した共同研究を開始 ―「もっと患者に優しい薬」を届けるために既存の医薬品の課題発掘を目指す

用語解説／

※1 賦形剤：錠剤、散剤（粉薬）、顆粒剤などの固形製剤に、成型、増量、希釈を目的に加えられる添加剤。

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 統括薬剤部 薬学部病院薬剤学講座 准教授 百賢二（ももけんじ） TEL：03-3784-8845 E-mail：k.momo@pharm.showa-u.ac.jp

新たな脳腫瘍治療の開発へ 次世代ゲノムシーケンス解析による 脳腫瘍遺伝子検査の共同研究契約を締結



学 校法人昭和大学（東京都品川区／理事長：小口勝司）は、次世代ゲノムシーケンス解析を用いた脳腫瘍遺伝子検査の確立を目指し、株式会社Cancer Precision Medicine（神奈川県川崎市／代表取締役：嶋田順一）ならびにAdvanced Genomics APAC Co., Ltd.（台湾桃園市／Managing Director: Andy Chang）と共同研究契約を締結した。

■共同研究の概要

脳腫瘍、特に悪性脳腫瘍は、治療効果が得られにくく予後の悪い疾患として知られている。近年、脳腫瘍の分野においてゲノム解析が急速に進み、予後や治療の反応性の予測因子となる遺伝子変異の発見や、その遺伝子変異を標的とした治療薬の開発が進んでいる。遺伝子変異の情報は、脳腫瘍における診断基準の一部として採用されており、遺伝子検査は今後の日常診療において必要不可欠になると考えられている。

本研究では、成人の神経膠腫をターゲットとして腫瘍で生じる遺伝子変異を患者さんごとに次世代シーケンスにより網羅的に解析し、既に確立されている検査等による情報と対比検討することで、個々の患者さんの診断や治療に還元できる脳腫瘍の遺伝子検査の確立を目指す。

本研究の結果は、脳腫瘍の精密な診断、再発の早期発見、そして最適な治療選択への還元が期待される。

■共同研究課題名

次世代ゲノムシーケンス解析を用いた脳腫瘍治療の開発

■研究責任者

昭和大学 脳機能解析・デジタル医学研究所 所長 佐藤 洋輔
株式会社Cancer Precision Medicine 事業本部長 吉村 祥子
Advanced Genomics APAC Co.,Ltd. マネージャー 木村 亮

リリース時タイトル／学校法人昭和大学が株式会社Cancer Precision MedicineならびにAdvanced Genomics APAC Co., Ltd.と新たな脳腫瘍治療の開発に向け、共同研究契約を締結

参考／

株式会社Cancer Precision Medicineの概要
所在地／神奈川県川崎市川崎区東田町1-2
代表者／代表取締役 嶋田 順一
事業内容／がん遺伝子の大規模解析検査ならびにがん免疫療法の研究開発
資本金／50,000,000円
URL／https://www.cancerprecision.co.jp/

Advanced Genomics APAC Co., Ltd.の概要
所在地／Qingfeng Road Section 1, 9F, Nr. 65, Zhongli District, Taoyuan City
代表者／Managing Director Andy Chang
事業内容／Advanced Genomics Limited(英国)の子会社で、台湾を拠点に日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、中国、東南アジアなどに展開し、グループ会社であるNonacus Limited(英国)が開発および製造販売するNGS関連製品を取り扱う
資本金／33,334,073.16台湾ドル
URL／https://www.aglapac.com/

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 脳機能解析・デジタル医学研究所 助教 田中 宏祐（たなか こうすけ） E-mail: kosuke.tanaka@med.showa-u.ac.jp

起立性調節障害の子どもを対象とした 睡眠実態調査プロジェクト協力医療機関を募集



理 化学研究所（理研）生命機能科学研究センター合成生物学研究チームの上田泰己チームリーダー（東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻システムズ薬理学教室教授）、東京大学同教室の岸哲史特任講師、昭和大学医学部小児科学講座の加藤光広教授、同大学保健管理センターの田中大介教授らは、起立性調節障害の子ども（小中高生）を対象として、ウェアラブルデバイスを用いた睡眠測定を実施し、起立性調節障害の子どもの睡眠状態の把握と、睡眠問題の改善の糸口発見を目指す「子ども睡眠検診」プロジェクト（起立性調節障害の睡眠実態調査）を実施する。

このたび、9月3日「秋の睡眠の日」に合わせて、プロジェクトにご参加・ご協力をいただける医療機関（医師）の募集を開始



する。同時に、プロジェクトの持続的推進への支援企業・団体を募集する。プロジェクト開始に伴い、11月10日(日)にキックオフシンポジウムをオンライン開催する。

■「子ども睡眠検診」プロジェクトの概要

(1) 腕時計型のウェアラブルデバイスで起立性調節障害の子どもの睡眠を測定し、独自に開発した最先端のアルゴリズム

- 「ACCEL」[※]で解析することにより、起立性調節障害の子どもの睡眠状態の把握と睡眠改善につなげる研究を推進する。
- (2) 起立性調節障害の子どもの大規模睡眠調査を通じて、起立性調節障害という疾患に対する科学的な理解と社会的な啓発を行うことを目指す。
- (3) 協力医療機関（医師）は、起立性調節障害患者（子ども）に対する睡眠測定の案内・説明を行い、デバイスの授受を行う。
- (4) 参加者（患者）は、プロジェクトに参加する専門医を受診し、専用ウェアラブルデバイスを受け取り、それを2週間装着したまま生活し、毎朝ウェブ（Web）問診への回答を行う。その後、ウェアラブルデバイスを返却し、測定結果のフィードバックを受け取る。
- (5) 各医療機関において、デバイス数や診察状況などの事情から、測定参加可能数には上限がある。

■募集の概要

- (1) 募集対象：起立性調節障害の診察を行っている日本の医療機関・医師（新起立試験と身体的チェックリストを用いた診断を行うこと）
- (2) 測定対象：上記基準での起立性調節障害の診断を受けている患者（小中高生）
- (3) 実施日程：2025年4月～（先行して募集を開始：先着順に調整）（2024年9月～2025年3月は、プレ期間として内部で実施）
- (4) 費用負担：なし
- (5) 応募締切：2026年3月（予定）
- (6) 本プロジェクトの詳細や参加申し込み方法は、「子ども睡眠検診」プロジェクトのウェブサイト（<https://sys-pharm.m.u-tokyo.ac.jp/childsleep/od>）から。

胎児の超音波診断を支援するAIシステム開発 先天性心疾患の早期発見に期待



理化学研究所（理研）革新知能統合研究センターがん探索医療研究チームの小松正明副チームリーダー、国立がん研究センター研究所医療AI研究開発分野の浜本隆二分野長（理研革新知能統合研究センターがん探索医療研究チーム・チームリーダー）、昭和大学医学部産婦人科学講座の松岡隆准教授らの共同研究グループは、超音波検査で胎児の心臓に異常がないかスクリーニングする際に、検査者の超音波診断を支援する人工知能（AI）システムを共同開発し、AI搭載医療機器プログラムとして厚生労働省の薬事承認を取得した。

本研究成果は、胎児の超音波診断を支援するとともに、早急に治療が必要な重症かつ複雑な先天性心疾患の見落としを防ぎ、早期診断や綿密な治療計画の立案につながると期待できる。また、本システムはクラウド環境で提供されるプログラム医療機器

■「子ども睡眠検診」プロジェクト・キックオフシンポジウム

- (1) 日時：2024年11月10日(日)14時00分～16時30分（予定）
- (2) 概要：起立性調節障害についての講演と、「子ども睡眠検診」プロジェクトに関する研究者からの説明を行う。プログラムは後日ERATO上田生体時間プロジェクトのウェブサイト（<https://www.jst.go.jp/erato/uedah/>）でお知らせする。
- (3) 開催形式：オンライン（事前登録制）
- (4) 登録URL：https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tZMrduGsqzouHd3NJ42BYC-ecRK_pYVzmhIV#/registration

リリース時タイトル／起立性調節障害の子どもの対象とした「子ども睡眠検診」プロジェクトを開始 ―起立性調節障害の子どもの睡眠実態調査への協力医療機関を募集―

用語解説

※ ACCEL：腕の動きを基に睡眠覚醒状態を判別する方法。3軸方向の加速度を用い、腕の動きから、睡眠・覚醒状態を判定する。従来の方法に比べて睡眠中の覚醒を検出する特異度に優れ、中途覚醒の検出ができる方法である

発表者／理化学研究所 生命機能科学研究センター 合成生物学研究チーム チームリーダー 上田 泰己（うえた ひろき）（東京大学 大学院医学系研究科 機能生物学専攻 システムズ薬理学教室 教授）・東京大学 大学院医学系研究科 機能生物学専攻 システムズ薬理学教室 特任講師 岸 哲史（きし あきふみ）・昭和大学 医学部 小児科学講座 教授 加藤 光広（かとう みつひろ）・保健管理センター 教授 田中 大介（たなか だいすけ）

機関窓口／理化学研究所 広報室 報道担当 TEL：050-3495-0247 E-mail：ex-press@ml.riken.jp・東京大学大学院医学系研究科 総務チーム TEL：03-5841-3304 E-mail：ishomu@m.u-tokyo.ac.jp・昭和大学 総務部総務課 大学広報係 TEL：03-3784-8059 E-mail：press@ofc.showa-u.ac.jp

本プロジェクトに関する問い合わせ先／東京大学 大学院医学系研究科 機能生物学専攻 システムズ薬理学教室 JST ERATO 上田生体時間プロジェクト TEL：03-5841-3415 Fax：03-5841-3418 E-mail：kishi@m.u-tokyo.ac.jp

（Software as Medical Device, SaMD[※]）であり、機器、検査者に依存せず、ICTによりどの場所へも医療サービスを提供することができるようになる。すなわち、本システムの活用は、日本の周産期医療の技術格差や地域格差を無くし、より良い母子保健に寄与すると考えられる。

本研究開発は、国立がん研究センター（理事長：中釜斉）研究所と中央病院、理研革新知能統合研究センターが連携して取り組んでいる内閣府BRIDGE事業「医療デジタルツインの発展に資するデジタル医療データバンク構想」におけるプロジェクトの一つとして実施された。また本研究開発において、昭和大学は通常の診療にて妊婦（胎児）の超音波画像情報を取得し、国立がん研究センターにてデータ収集・統合を行った。次に、その統合したデータを理研にて解析し、新規アルゴリズムを獲得した。さらに、国立がん研究センターと昭和大学においてアルゴリズムの検証やプ

ログラムの性能評価を行った。

リリース時タイトル／昭和大学などの研究チームが超音波診断支援AI搭載医療機器プログラムの薬事承認を取得

共同研究グループ

・理化学研究所：革新知能統合研究センター 目的指向基盤技術研究グループ がん探索医療研究チーム 副チームリーダー 小松 正明・上級研究員 浅田 健・派遣職員 竹田 勝児

・国立がん研究センター：研究所 医療AI研究開発分野 分野長 浜本 隆二（理研革新知能統合研究センター 目的指向基盤技術研究グループ がん探索医療研究チーム チームリーダー）・ユニット長 金子 修三・連携大学院生 原田 直明・研究支援センター 生物統計部 部長 柴田 大朗・中央病院 臨床研究支援部門 研究企画推進部 多施設研究支援室／機器開発・薬事管理室 室長 片山 宏・がん対策研究所 生物統計研究部 生物統計研究室 室長 羽羽 文・中央病院 婦人腫瘍科 科長（研究当時）加藤 友康

・昭和大学：医学部 産婦人科学講座 准教授 松岡 隆・助教 小松 玲奈・教授 関沢 明彦・教授 市塚 清健・講師 金子 真由美・助教 後藤 未奈子・大学院生 青山 利奈・大学院生 寺屋 直樹

インクレチンGIPの抗動脈硬化作用を実証 心血管病や老年疾患での新しい治療手段に期待高まる



昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の寺崎道重講師（医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門）と山岸昌一教授（同）らの研究チームは、インクレチン^(※1)GIPがAMPK^(※2)経路を介して老化物質AGEによって惹起されたNADPHオキシダーゼに由来する酸化ストレスの産生を抑え、マクロファージの泡沫化を抑制することを世界で初めて明らかにした。本研究成果は、論文引用頻度のきわめて高い科学誌「International Journal of Molecular Sciences」に記載された。

■研究の背景・目的

心血管病は動脈硬化症を基盤として発症し、超高齢社会であるわが国においては、主たる死亡原因の一つになっている。糖尿病や生活習慣病では、食生活の乱れも加わって体内で老化物質であるAGE（終末糖化産物）が蓄積されていき、心血管病のリスクを増大させることが知られている。一方、小腸K細胞から分泌されるインクレチンGIPは膵β細胞からのインスリン分泌を促進するだけでなく、多面的効果も報告されており、糖尿病治療の一手段として期待を集めている。

■研究成果の概要

今回、ヒトU937マクロファージを用いた研究により、ヒトU937細胞にはGIP受容体とRAGE受容体が存在すること、また、GIPがAMPK経路を介してAGEに惹起されたNADPH^(※3)オキシダーゼに由来する酸化ストレスを抑え、Cdk5-CD36系をブロックすることでマクロファージ^(※4)の泡沫化を抑制することを見出した。

■今後の展望資格

GIP受容体作動薬^(※5)は、心血管病や老年疾患に対する新し

研究支援／本研究は、内閣府研究開発とSociety 5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）事業「医療デジタルツインの発展に資するデジタル医療データバンク構想（プログラムディレクター：浜本隆二）」、および文部科学省「次世代人工知能技術等研究開発拠点形成事業費補助金」による助成を受けて行われた。

発表者

・理化学研究所：革新知能統合研究センター 目的指向基盤技術研究グループ がん探索医療研究チーム 副チームリーダー 小松 正明（こまつ まさあき）

・国立がん研究センター：研究所 医療AI研究開発分野 分野長 浜本 隆二（はまもと りゅうじ）（理研 革新知能統合研究センター 目的指向基盤技術研究グループ がん探索医療研究チーム チームリーダー）

・昭和大学：医学部 産婦人科学講座 准教授 松岡 隆（まつおかりゅう）

機関窓口

・理化学研究所：広報室 報道担当 TEL：050-3495-0247 E-mail：ex-press@ml.riken.jp

・国立がん研究センター：企画戦略局 広報企画室 TEL：03-3542-2511 E-mail：ncc-admin@ncc.go.jp

用語解説

※ SaMD：ハードウェアに依存しない、1つまたは複数の医療上の機能を果たすソフトウェア

い治療手段になりうると期待される。

リリース時タイトル／昭和大学の研究チームが、インクレチンGIPの抗動脈硬化作用を実証

掲載誌／*International Journal of Molecular Sciences* (impact factor 2024:4.9)

論文名／Glucose-Dependent Insulinotropic Polypeptide Inhibits AGE-Induced NADPH Oxidase-Derived Oxidative Stress Generation and Foam Cell Formation in Macrophages Partly via AMPK Activation

著者／Michishige Terasaki, Hironori Yashima, Yusaku Mori, Tomomi Saito, Naoto Inoue, Takanori Matsui, Naoya Osaka, Tomoki Fujikawa, Makoto Ohara, Sho-Ichi Yamagishi

掲載日／2024年9月8日

DOI／10.3390/ijms25179724

URL／<https://www.mdpi.com/1422-0067/25/17/9724>

用語解説

※1 インクレチン：栄養素摂取に伴い分泌されインスリン分泌を促す消化管ホルモンの総称。GIP（グルコース依存性インスリン分泌刺激ポリペプチド）やGLP-1（グルカゴン様ペプチド-1）はインクレチンの一つで、膵臓にはGIPやGLP-1が作用する受容体があり、GIPやGLP-1はそれぞれの受容体に結合しその作用を伝えることで、インスリン分泌が促される。

※2 AMPK（AMP-activated protein kinase）：細胞の中で生命を維持するために必要な働きを担っている重要な酵素のひとつ。AMPKは体全体のエネルギーバランスを保つために重要な働きをしており、細胞の中でエネルギーが足りなくなると、その事態を察知してエネルギー生産に関わる酵素のスイッチをONにする作用をする。

※3 NADPHオキシダーゼ：動脈硬化症の主な原因となる活性酸素生成酵素。
※4 マクロファージの泡沫化：血液中のマクロファージ（貪食細胞）が、大量の悪玉コレステロールや脂肪性物質を取り込み、血管内膜で泡状になった細胞。動脈硬化の主な成因の一つ。

※5 GIP受容体作動薬：GIP受容体に結合することで、GIPの情報を細胞の内部に伝達するアゴニスト。

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 講師 寺崎 道重（てらさき みちしげ） TEL：03-3784-8000 E-mail：ttmichi@med.showa-u.ac.jp

世界初！新型がん治療薬剤の副作用である吐き気・嘔吐予防として既存の向精神病薬オランザピンの有効性を報告



昭 和大学（東京都品川区／学長：久光正）の酒井瞳准教授（先端がん治療研究所）と鶴谷純司教授（同）らの研究チームは、抗精神病薬のオランザピンを用いることで、抗体薬物複合体トラスツズマブデルクステカンによる遷延する吐き気や嘔吐を予防できることを世界で初めて明らかにした。本研究成果は、欧州臨床腫瘍学会（European Society for Medical Oncology：ESMO）の学術集会（2024年9月14日：スペイン・バルセロナ）で報告され、論文引用頻度の極めて高い科学誌「Annals of Oncology」に同時掲載された。

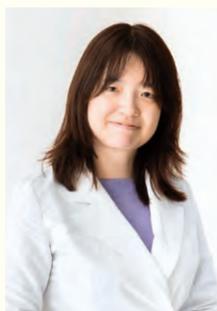
抗体薬物複合体（Antibody-Drug Conjugate：ADC）※は、抗体に抗がん剤を結合させることで腫瘍細胞により選択的に抗がん剤を届ける新しい治療薬。結合する抗がん剤の種類や量によっては吐き気が長期間続く場合がある。

トラスツズマブデルクステカンは乳がん、胃がん、肺がんを中心に、さまざまな腫瘍に効果が認められているADCで、今後も処方を受ける患者数の増加が見込まれている。また、この薬剤による頻度の高い副作用に、遷延する吐き気、嘔吐があり、患者さんを悩ませる。副作用を予防することは、患者さんの生活の質を守るために極めて重要である。

従来の抗がん剤は点滴後一週間ほどで吐き気は改善することが多く、抗がん剤の点滴前後にステロイド、セロトニン拮抗薬、NK1受容体拮抗薬が予防に用いられてきた。トラスツズマブデルクステカンでもこれらの薬剤は一定の予防効果が期待できるが、1週間を超える吐き気には有効な予防薬は報告がなかった。

今回、昭和大学の研究グループの行った臨床試験には、トラスツズマブデルクステカンを受ける168人の乳がん患者さんが参加し、標準的で予防的な吐き気止めに加えて、オランザピンまたはプラセボのいずれかを点滴から連日6日間、夕食後に服用した。オランザピンを服用した患者さんでは、服用期間のみならず1週間を超えて長期間に渡り遷延する吐き気予防の効果を実証した。

オランザピンはうつ病や統合失調症の患者さんの症状を和らげる薬剤として臨床で広く用いられており、その安全性は確立している。脳内に存在する複数の受容体に結合し、吐き気を遮断する。今後、既存の制吐剤との比較試験が確認のために必要と考えられるが、本研究はトラスツズマブデルクステカンの吐き気・嘔吐予防にオランザピンを用いることの科学的な裏付けを与える世界で初の研究結果となる。



リリース時タイトル／昭和大学の研究チームが、抗体薬物複合体による遷延する吐き気・嘔吐にオランザピンの有効性を報告

用語解説／

※ 抗体薬に抗がん剤を結合させた新しいタイプの点滴薬。抗体部分ががん細胞表面の抗原に結合することで抗がん剤を届け、正常細胞へは届きにくくしている。

掲載誌／Annals of Oncology

論文名／A randomized, double-blind, placebo-controlled phase II study of olanzapine based prophylactic antiemetic therapy for delayed and persistent nausea and vomiting in patients with HER2-positive or HER2-low breast cancer treated with trastuzumab deruxtecan: ERICA study (WJOG14320B)

著者／Hitomi Sakai, Junji Tsurutani, Yukinori Ozaki, Hiroshi Ishiguro, Kazuki Nozawa, Takashi Yamanaka, Kenjiro Aogi, Koji Matsumoto, Tsutomu Iwasa, M. Tokiwa, Mariko Tsuneizumi, Yasuo Miyoshi, Chiyo Kitazawa, Mitsugu Yamamoto, Yuko Takano, Chiyo. K. Imamura, Yasutaka Chiba, Daisuke Takiguchi, Takayuki Ezumi, Toshimi Takano

掲載日／2024年9月14日

DOI／10.1016/j.annonc.2024.09.001

URL／[https://www.annalsofoncology.org/article/S0923-7534\(24\)03995-4/fulltext](https://www.annalsofoncology.org/article/S0923-7534(24)03995-4/fulltext)

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 先端がん治療研究所 鶴谷 純司 TEL：03-3784-8145 E-mail：tsurutaj@med.showa-u.ac.jp

昭和大学から派生したベンチャー企業、不調に悩む現代人にサプリメント「Calibrage（キャリブラージ）」を発売！

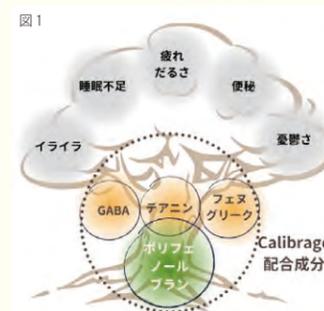


昭 和大学（東京都品川区／学長：久光正）の第1号ベンチャーである株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所（本社：札幌市中央区／代表取締役：柴田 浩樹、以下 旗ヶ岡ネイチャー研究所）は、ポリフェノールを豊富に含むオリジナル原料「ポリフェノールブラン」（白ワインの製造工程で生じる種や皮などの絞りかす由来の原料）を主成分としたサプリメント「Calibrage（キャリ

ブラージ）」の販売を9月10日から自社オンラインショップにて開始した。本製品は、日々の疲れや不調に悩む現代人のために昭和大学と開発した、安全性と機能性を兼ね備えたサプリメント。

Calibrage（キャリブラージ）は「ずっと続いている何となくの不調」の根本にアプローチするサプリメント。高い抗酸化活性をも

つ自社オリジナル原料「ポリフェノールブラン」を主成分として、その他サポート成分を学術的なエビデンスに基づき配合している。（図1）

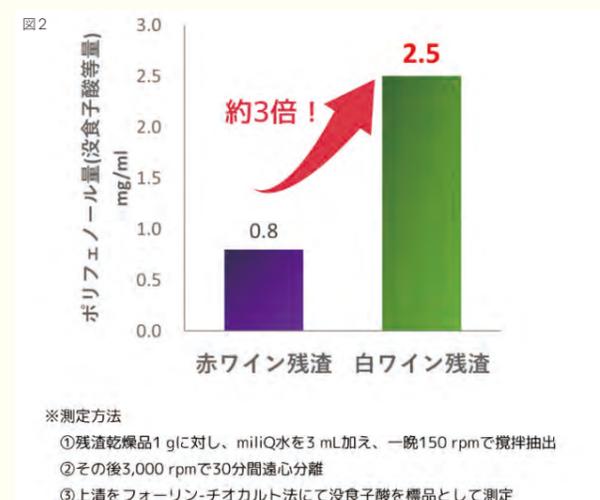


■成分

- ・ポリフェノールブラン：白ワイン製造の副産物であるブドウの種や皮を利用したポリフェノール
- ・GABA：現代社会の味方となるアミノ酸
- ・テアニン：お茶の旨味に関係し、リラックス状態を促す成分
- ・フェヌグリーク：インドのアーユルベータ医師が愛用するスパイス

「ポリフェノールと言えば赤ワイン」というイメージを持つ方が多いのではないかと。しかし旗ヶ岡ネイチャー研究所が使用しているのは白ワイン製造時に発生する白ブドウの皮や種（白ワイン残渣）である。

実際に赤と白のワイン残渣中に含まれるポリフェノール量を測定した結果、白の方が赤の約3倍ものポリフェノールが含まれていることが確認されている（昭和大学調べ）。（図2）



■Calibrage（キャリブラージ）の5つの特徴

- (1) 自社オリジナル原料『ポリフェノールブラン』配合

白ワイン用ブドウの品種や産地を厳選し、当社独自の製法によって高い抗酸化活性を持つポリフェノール原料を開発した。

- (2) 昭和大学との共同開発
機能性・安全性ともに医系総合大学である昭和大学にて検証済み。信頼性のある商品である。
- (3) 天然由来の安全・安心な成分を使用
ポリフェノールをはじめ、サポート成分もすべて天然由来の成分を使用している
- (4) 商品を通してワイナリー／農家支援
白ワインの製造工程で捨てられてしまうブドウの種皮を購入し、原材料化することでワイナリー／農家支援につながっている。
- (5) 願いを込めたパッケージデザイン
皆様のお守り代りとなる願いを込めて、再生や長寿を意味する「鱗文」（吉祥文様）をもとにした柄を採用。

■こんな方に試してほしい

- ・疲れやすい
- ・いつも体がだるい
- ・スッキリ目覚めたい
- ・便秘気味だ
- ・最近太りやすくなったのは年齢のせいだと諦めている
- ・仕事中に頭がまわらない
- ・上記の不詳を複数抱えている

■オンラインショップ

<https://shop.hatagaoka-n.co.jp/>

※定期購入のお申込みがご得。
・初月 55%OFF（税込 2,450円）
・2か月目以降 10%OFF（税込 4,860円）
※いつでも無料でキャンセル可能。
（初月のみ購入し、2か月目以降をキャンセルすることも可能）

リリース時タイトル／昭和大学との共同開発！株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所が、不調に悩む現代人のためのサステナブルなサプリメント「Calibrage（キャリブラージ）」を発売

商品情報／商品名：Calibrage（キャリブラージ） 内容量：90粒（約1か月分）
価格：税込5,400円（本体価格5,000円）

会社概要／会社名：株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所 代表者：柴田 浩樹 設立年月：2023年9月 資本金：2,600万円 所在地：〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目1-7MMS札幌駅前ビル2F ホームページ：<https://hatagaoka-n.co.jp/> E-mail：okyakusama@hatagaoka-n.co.jp

横浜銀行と包括連携協定を締結 地域経済の持続的な成長・活性化の礎に



2 024年9月26日、学校法人昭和大学(東京都品川区／理事長：小口勝司)は株式会社横浜銀行と包括連携協定を締結した。本協定は、相互の人的・知的資源の交流を図り、幅広い分野での教育・研究・社会貢献活動により、地域の諸課題解決に資することを目的としている。

協定締結式は昭和大学旗の台キャンパスにて行われ、本学より小口勝司理事長、久光正学長、小川良雄副学長、三邊武彦統括研究推進センター長、鈴木健司同事務室事務長が出席した。横浜銀行からは片岡達也代表取締役頭取、野辺和美執行役員 地域戦略統括部・事務サービス部担当、太田豊執行役員 東京支店長兼東京・県外地区本部長、梶川卓自由が丘支店支店長、人見崇之地域戦略統括部 副部長が出席された。

本協定は、地域経済の持続的な成長・活性化に貢献するため、人的・知的資源の交流を図り、幅広い分野での連携・協力を通じて地域の諸課題解決に資することを目的に締結した。横浜銀行からの企業ニーズの提供による共同研究、共催イベントの開催など新たな取り組みを予定している。

協定内容は以下の通り。

■協定内容

- (1) 地域経済の活性化に向けた取り組み
- (2) 地域経済を金融面・技術面から支える人材育成の取り組み
- (3) 相互に保有する知的資源を活用する取り組み
- (4) 地域社会への貢献に対する取り組み
- (5) その他本協定の目的に資すると認められる事項

リリース時タイトル／学校法人昭和大学が株式会社横浜銀行と包括連携協定を締結

参考／

昭和大学ホームページ：<https://www.showa-u.ac.jp/>

横浜銀行ホームページ：<https://www.boj.co.jp/>

本件に関する問い合わせ先／学校法人 昭和大学 総務部企画課 TEL：03-3784-8387 E-mail：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp

